

專 門 分 野

基 礎 看 護 学

看護学概論

開講時期	I	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	看護の意義と歴史の変遷を知り、看護の概念を学ぶ				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	医療・看護に関わる動向について 日頃から関心をもつこと グループワーク・発表があるとき には資料作成と発表会準備が必要	テキスト	看護学概論（医学書院）看護者の基本的責務 ナイチンゲール『看護覚え書き』 ヘンダーソン『看護の基本となるもの』 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	看護とは 1. 看護とは何かについて理解する 2. 看護の本質について理解する	1. 看護の本質 1) 看護学を学びはじめるにあたって 2) 看護の変遷 3) 看護の定義 資料1 主要な看護理論家の看護概念 資料2 戦後における看護の変遷 資料3 看護にかかわる定義および綱領 2. 看護の役割と機能 1) 看護ケアについて 2) 看護実践とその質保証に必要な要件 3) 看護の役割・機能の拡大 3. 看護の継続性と情報共有 1) 入院時の施設間の連携 2) 入院中の情報伝達と共有 3) 医療機関がかわるとき（転院時）の情報伝達 4) 多職種チームとしての情報共有と継続的かわり 5) 在宅療養を可能にする連携と継続的なかかわり	1. 看護の歴史の変遷とさまざまな理論家による看護の定義を学び、看護の本質とはなにかについて述べるができる 2. 看護行為の本質とケアのさまざまな概念と看護におけるケアとはなにかを述べるができる 3. 看護実践に必要な要素・看護実践の質の保証に必要な要件を述べるができる 4. 看護と多職種の連携と実際の重要性を述べるができる	講義
3 4	4	看護の対象の理解 1. 看護の対象である人間の「こころ」と「からだ」について理解する	1. 人間の「こころ」と「からだ」 1) 対象理解の基盤となる人体の構造と機能・病態生理 2) 看護の使命と結びつくホメオスタシス 3) 「こころ」と「からだ」にかかるストレスの影響 4) 患者心理（病気による「こころ」の変化）の理解 5) 対象者の「こころ」の理解に役だつさまざまな理論 2. 生涯発達しつづける存在としての人間 1) 身体的発育 2) 心理・社会的側面における発達 3. 人間の「暮らし」の理解 1) 生活者としての人間：「生活」の4つの側面 2) 看護の対象としての家族・集団・地域	1. 人間理解の基盤となる看護と関連づけられる生理学・心理学の様々な理論とそれらの理論が看護実践にどう活用されるのかを述べるができる 2. 心理・社会的課題をかかえて成長する存在である人間について述べるができる 3. 生活者である人間に対して、看護の役割と看護の対象について述べることができる	講義
5 6	4	国民の健康・生活の全体像の把握 1. 生活の中の健康を知ることから看護のあり方を理解する 2. 国民のライフサイクルと健康生活について理解する 3. 現代の社会的背景をふまえ、日本人の健康と生活について理解する	1. なぜ国民の健康・生活の全体像の把握が必要か 2. 健康のとらえ方 1) 健康とはなにか 2) 健康でない状態とはどのようなものか 3) 障害とはなにか 4) 生活と健康 5) 健康の実現：ヘルスプロモーション 3. 国民の健康の全体像 1) 国民全体の健康状態 2) 患者の状況 3) 障害者の状況 4) 難病患者の状況 4. 国民のライフサイクルと健康・生活 1) ライフサイクルとは 2) 平均寿命と出生 3) 子どもの健康 4) 就学と社会的自立	1. 健康とはなにか、健康をどのようにとらえるべきかを述べるができる 2. 障害とはなにか障害をどのようにとらえるべきかを述べるができる 3. 健康と障害、生活の関係を述べることができる 4. 主要な公的統計の結果から国民全体の健康と生活と、現代の国民の健康と生活を考えるうえで重要ないくつかの視点を述べるができる	講義

			<ul style="list-style-type: none"> 5) 結婚と出産 6) 仕事と生計 7) 家族 8) 介護 9) 老いと死 5. 現代の日本人の健康と生活を考えるキーワード <ul style="list-style-type: none"> 1) 少子高齢化 2) 健康寿命 3) 人とのつながり 4) 健康の社会的決定要因と健康格差 5) 健康・生活とQOL 		
7	2	看護の提供者 1. 職業としての「看護」について理解する	1. 職業としての看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 職業としての看護のはじまり（明治期から第二次世界大戦終結までの看護） 2) 職業としての看護の確立（終戦時から昭和中期の看護） 3) 職業としての看護の充実（昭和後期から平成初期の看護） 4) 職業としての看護の発展（現在の看護） 5) 職業としての看護の新たな展開（これからの看護） 2. 看護職の資格と養成にかかわる制度 <ul style="list-style-type: none"> 1) 保健師助産師看護師法 2) 看護基礎教育と養成施設 3) 看護職の養成制度 3. 看護職者の就業状況と継続教育 <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護職者の就業状況 2) 継続教育 3) 専門看護師・認定看護師・認定看護管理者 4) 看護職のキャリア開発 4. 看護職の養成制度の課題 <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護職養成の場としくみに関する課題 2) 「特定行為に係る看護師の研修制度」の開始 3) 看護教員の育成と看護継続教育の保障 資料3 保健・医療・福祉関係者養成制度	1. 看護職の成立と発展、現在のかたちになるまでの経緯、看護職（看護師・准看護師・保健師・助産師）の資格と養成制度、看護職者の就業状況と免許取得後の継続教育と、看護職としての「キャリア開発」について述べるができる	講義
8 9	4	看護における倫理 1. 看護における倫理について理解する	1. 現代社会と倫理 <ul style="list-style-type: none"> 1) なぜ倫理について学ぶのか 2) 倫理, 道徳, 法 3) 現代の医療・看護と倫理 4) 職業倫理としての看護倫理 2. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 <ul style="list-style-type: none"> 1) 患者の権利とインフォームドコンセント 2) 現代医療におけるさまざまな倫理的問題 3) 医療専門職の倫理規定 3. 看護実践における倫理問題への取り組み <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護の本質としての看護倫理 2) 医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 3) 看護実践場面での倫理的ジレンマ 4) 倫理的課題に取り組むためのしくみ 	1. 倫理とは、なぜ倫理を学ぶ必要があるのかを述べるができる 2. 看護をめぐる倫理的問題について、看護師の倫理規定を述べるができる 3. 医療・看護をめぐる倫理原則を理解し、倫理的問題や倫理的ジレンマの解決にどのように取り組むべきかを述べるができる	講義
10 11 12	6	看護の提供のしくみ 1. サービスとは何かをとらえたうえで、サービスとしての看護に理解する 2. 医療安全と医療の質保証について理解する	1. サービスとしての看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 「看護とはなにか」の3つの視点 2) 3つの視点の相互関連 2. 看護サービス提供の場 <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護サービスの担い手とチーム医療 2) 看護サービス提供の場 3. 看護をめぐる制度と政策 <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護制度－看護サービスと看護職者にかかわる法制度 2) 看護政策－法をつくり、実行するしくみとその過程 3) 看護サービスと経済のしくみ－診療報酬と人員配置 4) 看護の人員配置基準と看護サービスの評価 4. 看護サービスの管理 <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護サービスの管理とはどのようなことか 2) 看護管理システム 3) 組織 4) リーダーシップとフォロワーシップ 5) 人的資源の管理 5. 医療安全と医療の質保証	1. 看護におけるサービスという考え方について述べるができる 2. チーム医療に携わるさまざまな職種と、チームの機能を述べるができる 3. 看護サービスの提供の場とサービスの内容を述べることができる 4. 看護にかかわるさまざまな法制度を述べるができる 5. 看護サービスの管理についてその対象や組織・リーダーシップの概要とともに述べるができる 6. 医療事故がおこる過程と防止するための対策について	講義

			<ul style="list-style-type: none"> 1) 医療事故の増加 2) 医療事故の要因と医療の質の向上 3) ヒューマンエラーと医療事故 4) 看護業務の特性と医療事故 5) 医療事故防止対策としてのインシデントレポートの活用 6) 医療安全における医療者と患者の協働の必要性 	述べることができる	
13 14	4	<p>国広がる看護の活動領域際化と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 国際化と看護について理解する 2. 災害時における看護について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 国際化と看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 国際看護学とはなにか 2) 開発途上国の定義 3) 健康と保健医療の世界的課題 4) 国際協力のしくみ 5) 国際保健の基本理念 6) 国際看護活動の展開 7) 日本に在留する外国人の看護 8) 異文化理解 2. 災害時における看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 災害看護の概念と構造 2) 災害と健康 3) 災害サイクルにそった看護活動 4) 心理的回復の過程 5) パンデミックへの対応 6) 災害への備えとそのシステム 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 国際看護学のこれまでの流れ、国際協力にはどのような組織・しくみ、国際保健の基本理念を把握し、国際看護活動の展開と日本に在留する外国人への看護の実際を述べることができる 2. 災害看護の特徴、災害サイクルにそった看護活動、どのような備えが必要であるか述べることができる 	講義
15	2	単位認定終講試験			

看護研究

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	非常勤講師	実務経験	有		
科目目標	1. 看護学における看護研究の意義目的とその方法が理解できる 2. 研究的視点と論理的思考を持ち備えて看護の実践評価ができる				
評価方法	課題提出 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	医療・看護に関わる動向について 日頃から関心をもつこと グループワーク・発表があるとき には資料作成と発表会準備が必要	テキスト	看護研究（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	看護研究とは 1. 看護研究概要を理解することができる	1. 看護における研究の意味 2. 看護研究とは何か 3. なぜ看護を学ぶのか 4. 看護研究の歴史 5. 看護研究への期待	1. 看護研究とは何か、その役割と特徴となぜ看護研究を学ぶ必要があるのか看護研究がどのように発展してきたかを述べる 2. 最良のケアを実践するための方法、および科学的根拠（エビデンス）に基づいた実践という考え方の基本を述べる 3. 健康問題に対応するために看護研究の推進がなぜ不可欠かを述べる	講義
2	2	看護研究のはじめ方 1. 研究の進め方の実際について理解することができる	1. リサーチクエストとは 2. リサーチクエスト決定までのプロセス	1. 研究におけるリサーチクエストの重要性、疑問をリサーチクエストにするプロセス、リサーチクエストを精練する方法を述べる	講義
3	2	情報の探索と吟味 1. 文献レビューとその方法について理解することができる	1. 情報と科学的な根拠 2. 文献とその種類 3. 文献レビューとその目的 4. 文献検索の方法 5. 文献の入手と整理 6. 文献の読み方 7. 文献レビューの記述	1. 看護ケアの根拠とすべき情報とは何かを理解する 2. 文献の種類と読むべき優先順位、文献レビューとその目的、文献検索データベースを使った文献検索の方法を述べる 3. 文献検索を行い、文献クリティークの方法、文献検討の記述方法を述べる	講義
4	2	研究における倫理的配慮 1. 研究における倫理的配慮の具体的方法について理解することができる	1. 研究における倫理的配慮の原則 2. 依頼書と同意書の書き方 3. 特別な配慮が必要な場合の対応 4. 依頼書同意書の例	1. 看護研究においてどのような倫理的行動が必要か、看護研究において遵守すべき4つの倫理原則とそれに応じた擁護すべき権利を述べる 2. 倫理原則にそった依頼書の書き方と同意のとり方と依頼と同意に際して特別な配慮が必要な場合の対応を述べる	講義
5	2	研究デザイン 1. 研究の設計と選択方法について理解することができる	1. 看護における研究デザインの多様性 2. 研究デザインの選択 3. 研究デザインの整理 4. 量的研究デザイン 5. ミックスドメソッド 6. 尺度開発	1. なぜ、看護学においては多様な研究デザインが必要かを述べる 2. リサーチクエストのレベルに適した研究デザインとそれぞれの研究デザインの概要を述べる	講義
6	2	データの収集とデータの分析 1. 研究デザインに応じたデータ分析の方法について理解することができる	1. データとは 2. 標本の選択－誰からデータを集めるか 3. データ収集法インタビューデータの収集 4. アンケートデータの収集 5. 開発された尺度の活用 6. 観察データの収集 7. 生理学的測定データ、その他のデータの収集 8. 質的データ分析・量的データ分析	1. 研究対象と集めるべきデータの選定、およびデータの収集方法、標本の選択の考え方と方法を述べる 2. 質的データ分析の特徴と量的データ分析の手順を述べる 3. 適切な研究対象を選び、データの収集方法、適切なデータを適切な方法で、データの入力・整理方法の基本、集めたデータの特徴のつかみ方（分布、代表値の把握）を身につける。 4. 統計学的仮説検定とは何かを理解し、変数の関連についての初歩的な検定方法を述べる	講義
7	2	研究計画書の作成 1. 研究計画書の作成の具体的方法について理解すること	1. 研究計画書とは 2. 研究計画書の書式と書き方 3. 研究計画書の例	1. 研究計画書を作成する意義と目的、研究計画書の書式と記載内容を述べる 2. 自分の研究について研究計画書を作成できる	講義

		ができる			
8	2	研究を伝える 1. 学会発表・論文作成などの発表の成果について理解することができる	1. 研究成果をまとめる 2. 研究成果を伝える	1. 研究成果の公表方法、研究成果を論文にまとめて投稿する意義、論文の構成と書き方、研究成果をまとめる方法を述べるができる	講義 演習
9	2	ケースレポート・事例研究・ 調査研究・文献研究・ 実践報告の進め方 1. 種々の研究方法について理解することができる	1. ケースレポートとは 2. 事例研究とは 3. 実態調査研究の進め方 4. 相関研究の進め方 5. 文献研究 6. 実践報告	1. ケースレポートと事例研究の違いを理解し、ケースレポートと事例研究の目的と意義、方法を述べるができる 2. 研究の一手法である事例介入研究と実態調査研究また、相関研究の意義・方法を述べるができる	講義
10 11 12 13 14 15	12	看護研究発表 1. テーマに沿った研究成果を発表し研究的視点で学びを深めることができる	1. 看護研究計画書作成 2. 文献検索 3. 論文作成 4. 看護研究プレゼンテーション	1. 文献研究・実践報告の意義を理解し、文献検討し、研究の進め方を理解した上で研究計画書を作成できる。 2. 看護実践の質向上に役立つ実践報告のかたちと進め方を述べるができる	講義 演習

家族看護学

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	15時間
教員名	臨床講師	実務経験	有 大阪労災病院勤務 家族看護 専門看護師		
科目目標	1. 看護の対象としての家族の特性がわかる 2. 家族を1つの単位として捉える意義がわかる 3. 家族看護の理論がわかる 4. 家族支援の考え方がわかる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	医療・看護に関わる動向について 日頃から関心をもつこと グループワーク・発表があるとき には資料作成と発表会準備が必要	テキスト	家族看護学（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	家族看護とは	1. 家族看護の特徴と理念 1) なぜ家族看護を学ぶのか 2) 家族看護の発展と変遷 3) 家族看護の特徴 4) 家族看護の目指すところ 2. 家族看護の実践の場面 1) 家族員が疾患や障がいをもつ家族 2) ライフサイクルと家族 3) コミュニティーと家族	1. 家族看護を学ぶ意義を述べる ことができる	講義
2 3	4	家族看護の対象 理解	1. 家族とは 1) 隣接領域における家族のとらえ方 2) 看護学から見た家族のとらえ方 3) 家族の健康 2. 家族構造 1) 家族構造とは 2) 血縁関係と親族関係を把握する方法 3) チーム医療での活用 3. 家族機能 1) 家族の育児機能 2) 家族のセルフケア機能 3) 社会における家族機能 4) 変化する家族機能 5) 家族機能を把握するためのモデルと方法 4. 現代の家族とその課題 1) 現代家族の様相 2) 現代家族の課題	1. 家族をどのようにとらえるか 述べる ことができる 2. 家族の機能について述べる ことができる	講義
4 5	4	家族看護を支える 理論と介入法	1. 家族を理解するための理論 1) 家族発達理論 2) 家族システム理論 2. 家族の変化を把握するための理論(家族ストレス対処 理 論) 1) ABCXモデルとジェットコースターモデル 2) 二重ABCXモデル 3) 家族ストレス・順応・適応・回復モデル 3. 家族に変化をもたらす介入 1) 家族療法 2) 家族を支える介入	1. 家族理解するための理論には どのようなものがあるか述べる ことができる 2. 家族を支える介入方法につい て理解できる	講義

6 7	4	家族看護展開の方法	1. 家族看護過程とは 1) 家族看護過程の視点 2) 家族看護の枠組み 3) 患者個人の家族の看護過程の違い 2. 家族看護の実践 1) 情報収集 2) 家族アセスメント 3) 家族の看護問題の明確化 4) 家族計画の立案 5) 家族看護の実施 6) 家族看護実践の評価 7) 家族看護の多職種連携 3. さまざまな家族アセスメントモデル 1) フリードマンとハンソンのアセスメントモデル 2) 鈴木のアセスメントモデル 3) カルガリー家族看護モデル 4) 家族看護エンパワーメントモデル 5) 渡辺式家族アセスメントモデル	1. 家族看護過程についての視点、枠組みを理解できる 2. 家族看護過程のポイントを理解し、展開方法を述べることができる	講義
8	1	単位認定終講試験			

基礎看護技術 I

開講時期	I	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1. 看護技術を看護実践の中で活用することの意味と、看護実践の基盤となる考え方について学ぶ 2. 感染防止の基礎知識を理解し、施設内で発生する院内感染を防止するための技術を習得する 3. 人間にとっての環境の意味を理解し、生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する 4. 活動・休息の意味を理解し、基本的活動と睡眠の基礎知識と必要な援助方法を習得する 5. 苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護行為について理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	事前に配布された課題を行うこと。	テキスト	基礎看護技術 I 基礎看護技術 II（医学書院） ナイチンゲール『看護覚え書』 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	看護技術を学ぶにあたって 1. 看護技術とは何かを理解する 2. 看護技術の範囲を理解する 3. 看護基本技術を支える態度や行為の構成要素を理解する	1. 技術とはなにか 1) 行為を可能にする原理 2) 技術的用途倫理的側面 2. 看護技術の特徴 1) 全人的なかかわりが求められる 2) 人間関係を基盤とする 3) 状況変化への対応が求められる 4) 対象者の権利擁護が求められる 5) 倫理的判断が求められる 3. 看護技術の範囲 4. 看護技術を適切に実践するための要素 1) 看護技術の目的を把握する 2) 正確な方法を熟知する 3) 看護技術の根拠を考える 4) 対象者への適用意義と個別性を考慮する 5) インフォームドコンセント 6) 安全・安楽を確保する 7) プライバシーを保護する 8) 対象者の状態や反応を確認しながら実施する 9) 実施後の客観的評価と主観的評価 5. 看護技術の発展と修得のために 1) 技能と技術 2) 技能から技術へ	1. 看護技術とは何かを述べる ことができる 2. 看護技術の範囲を述べる ことができる 3. 看護基本技術を支える態度や更衣の構成要素の考え方を参考に、さまざまな看護技術を実施する際に共通して含まれるべき要素について考えることができる	講義
3	2	感染防止の技術 1. 感染成立の条件および院内感染防止の基本を理解する 2. 標準予防策を学び、正しい方法を理解する 3. 感染経路別予防策を学び、適切な方法を理解する	1. 感染防止の基礎知識 1) 感染成立の条件 2) 院内感染の防止 2. 標準予防策（スタンダードプリコーション） 1) 標準予防策の基礎知識 3. 感染経路別予防策 1) 感染経路別予防策の基礎知識 2) 接触予防策 3) 飛沫予防策 4) 空気予防策	1. 感染の成立条件について述べる ことができる 2. 院内感染の防止のために必要なことは何かを述べる ことができる 3. 感染経路別の予防策とそれぞれの対策について述べる ことができる	講義

4	2	<p>感染防止の技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機器の管理および環境整備の意義や重要性を理解する 2. 洗浄・消毒・滅菌の実際、感染性廃棄物の取り扱いについて理解する 3. 無菌操作について学び、正しい方法を理解する 4. 標準予防策を正しく実践する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 洗浄・消毒・滅菌 <ol style="list-style-type: none"> 1) 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 2) 洗浄 3) 消毒と滅菌 2. 無菌操作 <ol style="list-style-type: none"> 1) 無菌操作の基礎知識 2) 対策の実際 3. 感染性廃棄物の取り扱い <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染性廃棄物の基礎知識 2) 対策の実際 4. 標準予防策の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) アルコール手指消毒 2) マスク装着演習 3) グローブ装着演習 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 洗浄・消毒・滅菌の違い、それぞれの方法について述べるができる 2. 無菌操作の際に注意すべきことを述べるができる 3. 感染性廃棄物の廃棄方法について述べるができる 4. アルコール手指消毒の手順書の作成 5. マスク装着の手順書作成 6. グローブ装着の手順書作成 	講義
5 6	4	<p>感染防止の技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染防止のための技術を習得することができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 衛生的な手洗いの演習 2. 個人防護用具装着演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) マスク着用 2) 不潔ガウン 3) グローブ装着 3. 個人防護用具装着の演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 滅菌手袋 4. 無菌操作演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 滅菌パック 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 標準予防策に基づいた防護用具の着脱の方法を習得することができる 2. 滅菌物の取り扱い手順を習得することができる 3. 衛生的な手洗いの手順書作成 4. 個人防護用具装着手順書作成 5. 滅菌ガウン着用手順書作成 6. 滅菌手袋装着手順書作成 	演習
7	2	<p>環境調整の技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 療養生活の環境を構成する要素を理解し病室・病床の環境のアセスメントと調整を理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 援助の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養生活の環境 2) 病室の環境のアセスメントと調整 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病室の環境を快適なものにするために調整すべき要素を述べるができる 2. ベッド周囲の環境整備のポイントを述べるができる 	講義
8 9	4	<p>環境調整の技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活環境を整えるための技術を習得する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 援助の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) ベッド周囲の環境整備 2) 病床を整える 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ベッド周囲の環境整備を実践することができる 2. ベッドメイキングのポイントを理解し、実践することができる 3. ベッドメイキング手順書作成 4. リネン交換手順書作成 	講義
10	2	<p>活動の看護技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 姿勢の基礎知識・ボディメカニクスの原理を理解する 2. 体位とその目的を理解する 3. 移乗の援助と移送の方法を習得する 4. 体位保持の意義を理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的活動の援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) よい姿勢とは 2) 日常生活動作 3) ボディメカニクス 4) 体位 5) 移動（体位変換・歩行・移乗・移送） 2. 体位保持 <ol style="list-style-type: none"> 1) 援助の基礎知識 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的活動の基礎知識について述べるができる 2. 体位変換・移乗・移送動作の援助方法を述べるができる 	講義
11 12	4	<p>活動の看護技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体位変換とボディメカニクスの技術を習得する 2. 移乗と移送の技術を習得する 3. 様々な体位保持の技術を習得する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的活動の援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) ボディメカニクスを活用した体位変換の演習 2) ストレッチャー・スライディングシートを使用した移動の演習 3) 車椅子での移乗・移送 2. 体位保持 <ol style="list-style-type: none"> 1) 様々なポジショニングの演習 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボディメカニクスを活用した体位変換の技術を習得できる 2. 移動・移送に使用される物品の安全で正確に使用することができる 	演習

13	2	睡眠・休息の援助技術 1. 睡眠と睡眠障害について理解する 2. 睡眠・休息の具体的な援助を理解する	1. 睡眠・休息の基礎 1) 援助の基礎知識 2) 睡眠・休息の援助の実際	1. 睡眠・休息の基礎知識について述べるができる 2. 睡眠・休息の援助について述べるができる	講義
14	2	看護技術の確認 1. 生活環境を整える技術、感染防止の技術が実施できる	1. 生活環境を整える技術 2. 感染防止の技術	1. 生活環境を整える技術および感染防止の技術が実施できる	演習
15	2	単位認定終講試験			

基礎看護技術Ⅱ

開講時期	I	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1. ヘルスアセスメントの意味を理解し、必要とされる技術を習得することができる 2. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法について習得することができる 3. 呼吸・循環の生理学的メカニズムを理解し、呼吸・循環を整える技術を習得することができる 4. 電法の種類と電法が身体に及ぼす影響を理解し、温電法・冷電法の実践が習得できる 5. 苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護行為について理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	演習前には事前の自己学習、動画などでの技術確認、手順書作成など準備が必要 技術確認のある技術は自己練習が必要	テキスト	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 （医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	ヘルスアセスメント 1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解する	1. ヘルスアセスメントとは 2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 1) 問診の技術 2) 健康歴聴取の目的と実際 3) セルフケア能力のアセスメント 3. 全体の概観 1) フィジカルアセスメントに必要な技術 2) 全身状態・全体印象の把握	1. ヘルスアセスメントの目的について述べるができる 2. フィジカルイグザミネーションの基本的技術を実施することができる	講義
3 4 5 6 7	10	バイタルサイン観察の技術 1. 呼吸・循環・体温観察の意義・目的を理解し、正確に測定する技術を習得する 2. 測定値の変動をきたす因子を理解する 3. 測定値を正確かつ有効に評価・活用するための基準値や指標について理解する	1. バイタルサインとは 2. バイタルサインの観察 1) 技術の目的 2) 呼吸・体温・脈拍・血圧調節のメカニズムと影響因子 3. 技術の実際・技術のポイント 1) 脈拍 ……☆ 2) 呼吸 ……☆ 3) 体温 ……☆ 4) 血圧 ……☆ 5) 意識レベル	1. バイタルサインを正確に測定する方法について述べるができる 2. バイタルサインを正確に測定することができる	講義 演習
8 9 10 11 12 13 14	14	呼吸・循環を整える技術 苦痛の緩和・安楽確保の技術 1. 安全に酸素吸入を行う技術を習得する 2. 効果的な排痰方法を理解する 3. 安全に吸引を行う技術を習得する 4. 正確な吸入方法を理解する 5. 人工呼吸器装着時の援助の手順、患者の観察点を知る	1. 酸素吸入療法 1) 酸素療法とは 2) 酸素療法の適応 3) 酸素吸入に使われる器具の特徴 4) 酸素療法の副作用 5) 酸素ポンベの取り扱い ……● 2. 排痰ケア 1) 体位ドレナージ 2) 咳嗽介助、ハフィング 3) 一時的吸引（口腔・鼻腔・気管） ……● 3. 持続的吸引（胸腔ドレナージ） ……△ 4. 吸入 ……● 5. 人工呼吸療法 6. 体温管理の技術 1) 発熱時の援助 2) うつ熱時の援助（熱中症の場合） 3) 低体温療法	1. 呼吸を整える援助方法について述べるができる 2. 循環を整える援助方法について述べるができる 3. 安楽促進・苦痛の緩和（冷電法・温電法）の援助技術を実施できる	講義 演習

		6. 体温管理の援助技術を理解する 7. 末梢循環促進ケアの目的と方法を理解する 8. 安楽促進・苦痛の緩和の技術を理解することができる	7. 末梢循環促進ケア 8. 罨法 1) 罨法の意義 2) 罨法の効果と適応 3) 温罨法・冷罨法 ● (1) 生理学的効果、安楽を期待する場合 (2) 援助方法		
15	2	単位認定終講試験			

●：演習、△：デモ、☆：技術確認

基礎看護技術Ⅲ-①

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1. 身体各部の形態や、身体機能を正しく計測し評価することを習得することができる 2. フィジカルアセスメントの概念、フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データについて理解することができる 3. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、フィジカルアセスメントに活用することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	事前に配布された課題に取り組むこと 身体に興味を持ち、実際のケアに結び付けていくこと	テキスト	基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	スクリーニングの技術 1. 身体各部の計測の目的・意義を理解する 2. 測定値の変動をきたす因子を理解する 3. 正確な測定値を得るための測定技術を習得する 4. 測定値を正確かつ有効に評価・活用するための基準値や指標について理解する	1. フィジカルアセスメントとは 1) フィジカルアセスメントに必要な技術 2. 身体計測 1) 身長計測・・・・・・・・☆ 2) 体重計測・・・・・・・・☆ 3) 腹囲計測・・・・・・・・☆	1. スクリーニング技術の目的・ポイントを述べることができる 2. 身体計測を正しい技術で実施することができる	講義
2 3 4 5 6 7 8 9	16	系統別フィジカルアセスメント 1. 系統別フィジカルアセスメントについてその方法と主な正常所見、異常所見について理解する	系統別解剖学的理解とアセスメント・・・・・・・・☆ 1. 呼吸器のフィジカルアセスメント 1) 呼吸器のフィジカルアセスメントの目的 2) 呼吸器系の基礎知識 3) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際 2. 循環器系のフィジカルアセスメント 1) 循環器系のフィジカルアセスメントの目的 2) 循環器系の基礎知識 3) 循環器系のフィジカルアセスメントの実際 3. 乳房・腋窩・腹部のフィジカルアセスメント 1) 乳房・腋窩・腹部のフィジカルアセスメントの目的 2) 乳房・腋窩・腹部の基礎知識 3) 乳房・腋窩・腹部のフィジカルアセスメントの実際 4. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 1) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的 2) 筋・骨格系の基礎知識 3) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際 5. 神経系のフィジカルアセスメント 1) 神経系のフィジカルアセスメントの目的 2) 神経系の基礎知識 3) 神経系のフィジカルアセスメントの実際 6. 頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメント 1) 頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメントの目的 2) 頭頸部と感覚器の基礎知識 3) 頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメントの実際 7. 外皮系（皮膚・爪）のフィジカルアセスメント 1) 外皮系のフィジカルアセスメントの目的 2) 外皮系の基礎知識 3) 外皮系のフィジカルアセスメントの実際	1. フィジカルイグザミネーションの方法について述べる ことができる 2. フィジカルイグザミネーションの結果からアセスメントすることができる	講義 演習

			8. 心理・社会状態のアセスメント 1) 心理的側面のアセスメント 2) 社会的側面のアセスメント		
10 11 12 13	8	事例で学ぶフィジカルアセスメント 1. フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データを理解する 2. 観察事項の意味を理解する	1. 事例で学ぶフィジカルアセスメント 1) 問診：自覚症状の確認と経過 2) 全身の外観とフィジカルイグザミネーション 3) 得られた情報からわかること 4) アセスメント後の経過 (1) 循環器系事例 (2) 呼吸器系事例 (3) 腹部の事例 (4) 食事の事例	1. 正確な技術を実施でき、得た情報から状態の正常・異常が判断できる 2. 正常・異常の判断をした根拠を述べることができる	講義 演習
14	2	看護技術の確認 1. フィジカルアセスメントの技術	対象にフィジカルアセスメントの技術が実施できる	1. フィジカルアセスメントの技術を実施し、状態をアセスメントできる	演習
15	2	単位認定終講試験			

●演習 △デモ ☆技術確認

基礎看護技術Ⅲ-②

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1. 臨床判断のプロセスについて理解できる 2. あらゆる対象に共通する経過、症状の看護の基礎、援助技術について理解できる 3. 解剖生理・病理などの知識を看護に活用して臨床看護のイメージをつかむことができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	身体に興味を持ち、実際のケアに結び付けていくこと 既習の知識と関連付けて学びを深める	テキスト	基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	臨床判断とは	1. 臨床思考（クリニカルシンキング）とは 2. 臨床判断とは 3. 臨床判断モデルの4つのフェーズ 1) 気づく 2) 解釈する 3) 反応する 4) 省察する	1. 臨床判断の必要性を述べる ことができる 2. 臨床判断モデルの特徴を述べる ことができる	講義
2 3 4	6	臨床判断のプロセスを理解する	1. 予期・初期把握 2. 推論パターン（分析的・直感的・説話的） 3. 行為・結果 4. 行為の中の省察 5. 行為の後の省察・学び 6. コンテキスト・背景・関係性	1. 臨床判断のプロセスを述べる ことができる	講義
5 6 7 8	8	経過別看護の特性	1. 看護における経過 2. 急性期・回復期・慢性期・終末期の概念 3. 急性期・回復期・慢性期・終末期患者の特徴 4. 急性期・回復期・慢性期・終末期にある患者の看護	1. 健康障害の経過に基づき必要とされる看護援助にはどのようなものがあるか述べる ことができる	講義
9 10 11	6	健康状態に基づいた看護	1. 血圧異常がある患者の看護 2. 浮腫のある患者の看護 3. 疼痛のある患者の看護	1. 主要な症状、治療経過の基本的知識をふまえ、必要な看護援助にはどのようなものがあるか述べる ことができる	講義 演習
12 13 14	6	事例に沿った臨床判断	1. 呼吸困難がある患者の看護 1) 患者の疾患・症状・治療処置を関連付けて概要をつかむ 2) 患者の状態に気づく 3) 患者の状態を解釈する 4) 患者の状態に応じて反応する 5) 行為を省察する	1. 解剖生理や疾病治療論、機能障害の知識と関連付ける ことができる 2. 実施したことの反応を受け取り行為の意味づけ ができる	講義 演習
15	2	単位認定終講試験			

基礎看護技術Ⅳ－①

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1. 日常生活への看護を学び、その技術を習得することができる 2. 苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護行為について理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	人体の構造と機能、基本的な病態 生理や診断を理解するための自己学習 演習前の動画での技術確認、手順書作成	テキスト	人体の構造と機能 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	身体を清潔に保つ技術 苦痛の緩和・安楽確保の技術 1. 身体を清潔に保つ意義について理解する 2. 衣生活への看護の意義について理解する	1. 清潔援助の基礎知識 1) 皮膚・粘膜の構造と機能 2) 清潔援助の効果 2. 衣生活の援助の基礎知識 1) 衣服を用いることの意義 2) 熱産生と熱放散 3) 被服気候 4) 衣生活に関するニーズのアセスメント	1. 清潔の意義を述べることができる 2. 清潔保持のための援助の目的と方法を述べることができる	講義
3 4 5 6 7	10	身体を清潔に保つ技術 苦痛の緩和・安楽確保の技術 1. 清潔の技術を習得する 2. 衣生活への看護の技術について理解する	1. 清潔の援助の実際 1) 入浴・シャワー浴 2) 全身清拭 ● 3) 洗髪 ● 4) 手浴 5) 足浴とフットケア ● 6) 陰部洗浄 ● 7) 洗面 8) 眼・耳・鼻の清潔 9) 整容 10) 口腔ケア ● 2. 衣生活の援助の実際 1) 病衣の選び方 2) 衣類・寝衣交換 ●	1. 全身清拭を実施することができる 2. 洗髪を実施することができる 3. 足浴を実施することができる 4. 陰部洗浄・口腔ケアを見学し、方法や留意点を理解することができる 5. 衣生活の援助の基礎知識について述べるができる 6. 寝衣交換の目的と方法を述べることができる	講義 演習
8	6	食生活への看護技術 1. 食生活への看護技術を理解する	1. 食事援助の基礎知識 1) 人間にとっての「食」 2) 栄養状態および食欲・摂取能力のアセスメント 3) 医療施設で提供される食事	1. 食事の意義を述べるができる 2. 対象者に応じた食事援助技術の方法を述べることができる	講義
9			2. 食事介助 ● 3. 摂食・嚥下訓練	1. 患者の状態にあわせた食事介助ができる	講義 演習
10			4. 非経口栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 ● 2) 中心静脈栄養法	1. 非経口栄養摂取の援助の方法を述べることができる	講義 デモ
11	6	排泄への看護技術 1. 排泄への看護技術を理解する	1. 自然排尿および自然排便の介助 1) 自然排尿および自然排便の基礎知識 (1) 排泄の意義 (2) 排泄気管の機能と排泄のメカニズム (3) 観察とアセスメント	1. 排泄の意義を述べることができる	講義
12			2) 自然排尿および自然排便の介助の実際 (1) トイレにおける排泄介助 (2) 床上排泄援助 ● (3) おむつによる排泄援助	1. 対象者に応じた排泄の援助技術の方法を述べることができる	講義 演習

13			2. 導尿 1) 一時的導尿 2) 持続的導尿・・・・・・・・● 3. 排便を促す援助 1) 排便を促す援助の基礎知識 2) 浣腸・・・・・・・・● 3) 摘便 4. ストーマケア 1) 排泄援助としてのストーマケアの基礎知識	1. 導尿の目的や方法について述べる ことができる 2. 排便を促す援助の目的や方法について述べる ことができる	講義 演習
14	2	死亡時の看護技術 1. 死亡時の看護技術を理解する	1. 死の看取りの基礎知識 1) 死の看取りの援助とその基本 2) 死の看取りと悲嘆ケア 3) 臨終のケア 2. 死後のケア・・・・・・・・△	1. 死の看取りの基礎知識を述べる ことができる 2. 死亡時の看護のあり方を述べる ことができる	講義 デモ
15	2	単位認定終講試験			

表記の注意：●演習 △デモ

基礎看護技術Ⅳ－②

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	病院勤務経験有		
科目目標	検査・治療・処置における看護について学び、その技術を習得することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	人体の構造と機能、基本的な病態 生理や診断を理解できるよう、事前学習を行う 演習前の動画での技術確認、手順書作成	テキスト	臨床検査 薬理学 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 （医学書院）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	症状・生体機能管理技術 1. それぞれの検査の方法と検査時の看護について理解する	1. 症状・生体機能管理技術の基礎知識 2. 検体検査 1) 血液検査 2) 尿検査 3) 便検査 4) 喀痰検査 3. 生体情報モニタリング	1. 検査の介助に関する基礎知識を述べることができる	講義
2 3	4	症状・生体機能管理技術 1. 採血に必要な知識を獲得し、看護の実際を理解する	1. 血液検査 1) 注射器を用いた静脈血の採血・・・・・・・・● 2) 真空採血管を用いた静脈血の採血 3) 血糖測定・・・・・・・・●	1. エビデンスに基づいた採血方法を理解し述べるができる 2. 血糖測定の正しい方法を述べるができる	講義 演習
4	2	創傷管理技術 1. 創傷とその治療のメカニズムを知り、処置と看護について理解する 2. 褥瘡発生機序とアセスメント方法を理解し予防の援助について理解する	1. 創傷管理の基礎知識 1) 創傷と治癒 2) 創傷治療のための環境づくり 2. 創傷処置 3. 褥瘡予防 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	1. 創傷管理の基礎知識と創洗浄・創保護について述べるができる 2. 褥瘡発生の基礎知識や予防の援助方法について述べることができる	講義
5	2	診察・検査・処置の介助技術 1. 診察・検査・処置時の看護・援助方法について理解する	1. 診察の介助 2. 検査・処置の介助	1. 診察・検査・処置の概要と介助について述べるができる	講義
6 7 8 9 10 11 12 13	16	与薬の技術 1. 与薬の基礎知識を理解し援助の実際を理解する	1. 与薬の基礎知識 2. 与薬における事故防止の実際 1) 誤薬防止 2) 患者誤認防止 3) 針刺し防止策 3. 与薬の実際 1) 経口与薬・口腔内与薬 2) 吸入 3) 点眼 4) 点鼻 5) 経皮的与薬 6) 直腸内与薬 7) 注射 (1) 注射の基礎知識 (2) 注射の実施方法 ①皮下注射・・・・・・・・● ②皮内注射・・・・・・・・△ ③筋肉内注・・・・・・・・● ④静脈内注射（ワンショット）・・・・△ ⑤点滴静脈内注射・・・・・・・・☆	1. 与薬の基礎知識を述べることができる 2. 与薬における事故防止の重要性について述べることができる 3. 与薬における看護師の役割が述べることができる 4. 注射の基礎知識を述べることができる 5. エビデンスに基づいた静脈内点滴が実施できる 6. 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱いを理解し述べることができる 7. 輸血管理に必要な基礎知識を述べることができる	講義 演習

			8) 輸液ポンプ・シリンジポンプを用いた輸液・● 9) 輸血管理・・・・・・・・・・・・・・・・△			
14	2	看護技術の確認 1. 翼状針を用いた点滴静脈内注射の技術を習得することができる	1. エビデンスに基づいた点滴静脈注射の技術を習得する	1. エビデンスに基づき、安全かつ患者の安楽に配慮した点滴静脈内注射技術が実施できる	演習	
15	2	単位認定試験				

表記の注意：●演習 △デモ ☆技術確認あり

基礎看護技術V-①

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	病院勤務経験有		
科目目標	看護過程の展開の技術を理解することができる				
評価方法	筆記試験100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習法 (予習・復習・課題)	授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと 段階的に知識を統合するための個人ワーク、グループワークへの主体的な取り組み	テキスト	基礎看護技術Ⅰ（医学書院） NANDA-I看護診断：定義と診断（医学書院） 成人看護学総論（医学書院）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	看護実践における看護過程 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解する 2. 看護過程を用いることの意義を理解する	1. 看護過程とは 2. 看護過程の5つの構成要素 3. 構成要素間の関連 4. 看護過程で実践することの意義	1. 看護過程を構成する要素を述べる 2. 看護過程を用いる意義を述べる	講義
2 3	4	看護過程展開の基盤となる考え方 1. 問題解決過程を理解する 2. クリティカルシンキングと看護過程の関係を理解する 3. 看護過程の展開における倫理的側面を理解する 4. 看護過程の中でリフレクションとの関係を理解する	1. 問題解決過程 2. クリティカルシンキング 3. 倫理的配慮と価値判断 4. リフレクション	1. 問題解決過程に必要な力を述べる 2. クリティカルな思考の要素を述べる 3. 看護過程の倫理的側面を述べる 4. 看護過程の中でリフレクションとの関係を述べる	講義
4 5 6 7 8 9 10	14	看護過程の各段階 1. アセスメントの基本的な考えと実践方法を理解する 2. 看護問題と看護診断の基本的な考えと実践方法を理解する 3. 看護計画の立案方法を理解する 4. 実施の流れと評価の方法を理解する	1. アセスメント（情報の収集と分析） 1) 情報収集とは 2) 情報収集の方法 3) 情報の分析方法 4) 全体像の把握 2. 看護問題の明確化（看護診断） 1) 看護問題の見極め 2) 看護診断とは 3) NANDA I・看護診断分類法Ⅱ領域と類 4) NIC・NOC 5) 看護問題の種類 6) 看護診断の表記方法 7) 看護問題の優先順位 8) 共同問題 3. 期待される成果の明確化 1) 期待される成果の表記 2) 共同問題と期待される成果 4. 看護計画の立案 1) 看護計画立案の原則 2) 看護計画の表記 5. 実施 1) 実施の基本 6. 評価 1) 評価を行う意義 2) 評価を行う時期と方法	1. 情報の収集・分析内容とその方法を述べる 2. 看護問題の明確化と優先順位の決定するための判断内容を述べる 3. 看護診断、共同問題の考え方を述べる 4. 看護診断分類法Ⅱ領域と類の解釈ができる 5. 期待される成果の意味と表記方法を述べる 6. 目標達成のための介入方法を述べる 7. 評価の意義・時期・方法を述べる	講義

1 1	1	<p>看護記録</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護記録の法的位置づけ、目的と機能を理解する 2. 記録管理と情報開示、守秘義務とセキュリティの確保について理解できる 3. 看護記録の構成を理解できる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護記録とは 2. 記載・管理における留意点 3. 看護記録の構成 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護記録の法的位置づけ、目的・留意点を述べることができる 2. 記録管理と情報開示、守秘義務とセキュリティの確保について理解し述べることができる 3. 看護記録の構成を理解して述べるができる 	講義
1 2 1 3 1 4	6	<p>看護過程の活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を用いて看護過程の展開方法を理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を用いた看護過程の展開 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を用いて看護過程の展開を理解してワークを進めることができる 	講義
1 5	2	単位認定終講試験			

基礎看護技術V-②

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	病院勤務経験有		
科目目標	看護過程の展開技術を活用し、思考過程を整えることができる				
評価方法	課題提出 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習 (予習・復習・課題)	手順を踏んだ看護の道筋について 人体の構造と機能、基本的な病態 生理や診断、治療の知識について 看護過程の展開 (V-①) の活用 段階的に知識を統合するための個 人ワーク、グループワークへの主 体的な取り組み	テキスト	解剖生理学 生化学 病理学 微生物学 薬理学 栄養学 成人看護学呼吸器 病態生理学 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 成人看護学総論 (医学書院) NANDA-I看護診断：定義と診断 (医学書院)		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2 3	6	疾患について 1. 疾患の病態生理を理解する	1. 疾患について 1) 解剖生理 2) 病態の理解 3) 病態関連図の作成	1. 解剖生理が理解できる 2. 病態生理が理解できる 3. 病態関連図が作成できる	講義 演習
4 5 6 7	8	一次アセスメント 1. 情報の意味を理解する 2. NANDAの13領域の枠 組みを理解する	1. 一次アセスメント 1) 情報の理解 2) 情報のクラスタリング (1) 事例から気になる情報を抽出する (2) 情報の分類 NANDAの13領域 3) 情報の分析 領域の意味に沿ったアセスメント	1. 情報の意味を理解するこ とができる 2. 情報を分類することがで きる 3. 領域の意味に沿ったアセ スメントができる	講義 演習
8 9	4	全体像 1. 情報の関係性を理解する	1. 全体像 1) 病態関連図と全体像 2) 事象と事象の関連性	1. 全体像を描くことができる	講義 演習
10 11	4	二次アセスメント 1. 看護問題を明確にする	1. 二次アセスメント 1) 問題の統合 2) 診断指標と徴候・症状の照合 3) 関連因子と危険因子	1. 徴候・症状と診断指標を 照合することができる 2. 関連因子、危険因子を 照合することができる	講義 演習
12 13 14	6	看護計画の立案・実施と評価 1. 基本的な看護計画を理解す る 2. 実施、評価の意味を理解す る	1. 看護計画の立案 1) 診断指標・関連因子をふまえた期待する結果 2) 観察計画・ケア計画・教育計画 2. 看護計画の実施と評価	1. 期待する結果を設定する ことができる 2. 期待する結果の到達に 向けた看護計画を立案 できる 3. 実施、評価の記録方法 を理解することができる	講義 演習
15	2	看護過程の展開技術の評価 1. 看護過程評価表に基づき、 記録物の自己評価、他者評 価を行う	1. 一次アセスメント、全体像、二次アセスマ ント、看護計画立案の内容のピュア評価 2. 評価からの看護過程の提出記録物の修正、追加	1. まとめ 2. 看護過程評価表に基づい た単元目標の自己評価と 他者評価ができる	講義 演習

專 門 分 野

地 域 ・ 在 宅 看 護 論

地域・在宅看護概論

開講時期	I	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験	地域看護領域勤務有
科目目標	地域で生活する対象とその家族に対する看護の意義と役割を理解する				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	日頃から自分の地域における医療、福祉、保健について関心をもつ 事前の調べ学習、復習としての課題あり	テキスト	地域・在宅看護論（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	地域のなかでの暮らしと健康・看護 1. 人が営む暮らしを理解する	1. 働くこと・学ぶことと暮らし 2. 高齢者のいる暮らし 3. 出産・育児と暮らし	1. 人の暮らしにかかわる要素を述べることができる	講義
2 3	4	人々の暮らしと地域・在宅看護 1. 看護の対象を生活者としてとらえ、人々の暮らしを多角的・学問的に理解する 2. 地域・在宅看護とはどのような看護か、また求められる役割について理解する	1. 人々の暮らしの理解 1) 暮らしとは 2) 暮らしと健康の関係 3) 暮らしのなかで健康をとらえる 2. 地域・在宅看護の役割 1) 地域・在宅看護の基盤となる考え方 2) 地域・在宅看護に求められる役割 3. 暮らしを理解する	1. 人々の暮らしと健康との関係について説明できる 2. 地域・在宅看護の基盤となる考え方や役割について説明できる	講義 演習
4 5	4	暮らしの基盤としての地域の理解 1. 地域の特徴や地域の捉え方を理解する 2. 人々の暮らしと地域の特性との関係について理解する 3. 「地域共生社会」「地域包括ケアシステム」について理解する	1. 暮らしと地域 1) 地域の定義 2) 人々の暮らしと地域の多様性 2. 暮らしと地域を理解するための考え方 1) システム理論 2) システム思考 3. 地域包括ケアシステムと地域共生社会 1) 地域包括ケアシステム 2) 地域共生社会 4. 地域を理解する	1. 地域の特徴と地域の多様性について説明できる 2. 地域の特性が人々の暮らしに与える影響について説明できる 3. 「地域共生社会」「地域包括ケアシステム」について説明できる	講義 演習
6 7	4	地域・在宅看護の対象 1. 地域の多様な特性と人々の健康への影響を理解する 2. 地域・在宅看護の対象者の各ライフステージの特徴・多様性やさまざまな健康レベルを理解する 3. 地域・在宅看護の対象である家族について理解する	1. 地域・在宅看護の対象 1) 地域による多様性 2) ライフステージによる多様性 3) 健康レベルの多様性 2. 家族の理解 1) わが国における家族の現状 2) わが国における家族とその変遷 3) 地域・在宅看護の対象としての家族 3. 地域に暮らし対象者の理解と看護 1) 地域の特性の理解と看護 2) 家族のライフステージの理解と看護 3) 対象者の理解からつながりをつくる看護 4. 家族を理解する	1. 地域の特性が人々の健康に及ぼす影響について説明できる 2. 地域・在宅看護の対象者が地域でどのような健康レベルで暮らしているか説明できる 3. 家族の特徴について歴史的変遷も踏まえて説明できる	講義 演習
8 9 10 11	8	地域における暮らしを支える看護 1. 「暮らしを支える看護」とは何かを理解する 2. 暮らしにおける環境の重要性や意味を理解し、環境を整える地域・在宅看護の役割を理解する	1. 暮らしを支える地域・在宅看護 1) 「暮らしを支える看護」とは 2) 「暮らしを支える看護」の実践 2. 暮らしの環境を整える看護 1) 暮らしに関連する環境 2) 個人や家族の歴史・文化があることを理解する 3) 対象者の生活動作から環境を考える 4) 暮らしを取り巻く環境を知る 5) 人のつながりを意識する	1. 「暮らしを支える看護」について説明できる 2. 暮らしにおける環境の重要性や意味踏まえた地域・在宅看護の役割を説明できる 3. 地域に暮らし人々とその家族の多様な健	

		<p>3. 地域に暮らす人々とその家族の多様な健康ニーズをとらえ、看護の役割を理解する</p> <p>4. 各ライフステージにある人々の特徴を理解し、それに応じた看護の役割を理解する</p> <p>5. 暮らしの中にあるリスクと看護の役割を理解する</p> <p>6. 災害対策における地域・在宅看護の役割を理解する</p>	<p>3. 広がる看護の対象と提供方法</p> <p>1) 健康に対する人々のニーズ</p> <p>2) 看護の実践方法の広がり</p> <p>3) 人々の健康ニーズにこたえる看護</p> <p>4) 健康ニーズを支える看護の実践例</p> <p>4. 地域における家族への看護</p> <p>1) 地域における家族への看護とは</p> <p>2) 家族を支援する看護師の基本的な姿勢</p> <p>5. 地域におけるライフステージに応じた看護</p> <p>1) ライフステージと人々の暮らし</p> <p>2) ライフステージによる健康課題と予防</p> <p>3) 疾病とライフステージ</p> <p>4) 家族とライフステージ</p> <p>6. 地域での暮らしにおけるリスクの理解</p> <p>1) 暮らしにおけるリスク</p> <p>2) 暮らしにおけるリスクの種類</p> <p>3) できる限り安全に暮らしつづけるための援助</p> <p>7. 地域での暮らしにおける災害対策</p> <p>1) 暮らしと災害</p> <p>2) 地域・在宅看護と災害対策</p>	<p>康ニーズを踏まえた地域・在宅看護の役割を説明できる</p> <p>4. 各ライフステージにある人々の特徴を踏まえた地域・在宅看護の役割を説明できる</p> <p>5. 暮らしの中にあるリスクを踏まえた地域・在宅看護の役割を説明できる</p> <p>6. 災害時における地域・在宅看護の役割について説明できる</p>	講義
1 2 1 3 1 4	6	<p>地域・在宅看護実践の場と連携</p> <p>1. 地域・在宅看護の場を人々の暮らしと結び付けて理解する</p> <p>2. さまざまな暮らしの場と看護の役割・活動について理解する</p> <p>3. 地域・在宅看護の実践の場で、看護師とともに連携し働く医療福祉専門職の役割について理解する</p> <p>4. 多職種で連携する中での看護師の役割について理解する</p>	<p>1. さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし</p> <p>2. おもな地域・在宅看護実践の場</p> <p>1) 住まいで提供される看護</p> <p>2) 通所サービスの場で提供される看護</p> <p>3) 短期入所サービスの場で提供される看護</p> <p>4) 通所・短期入所・訪問サービスの場で提供される看護</p> <p>5) 施設サービスの場で提供される看護</p> <p>6) 医療機関で提供される看護</p> <p>7) 地域のなかで提供される看護</p> <p>3. 地域・在宅看護における多職種連携</p> <p>1) 医療専門職との連携</p> <p>2) 福祉専門職との連携</p> <p>3) 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携</p> <p>4) 多職種連携からのネットワークづくり</p> <p>4. 多職種との連携・協働を考える</p>	<p>1. 地域・在宅看護の実践の場について説明できる</p> <p>2. 看護師と共に連携していく職種と、それぞれの役割について説明できる</p>	講義
1 5	2	単位認定終講試験			

地域・在宅看護援助論 I

開講時期	II	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	病院勤務経験 地域看護領域勤務有		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護実践に必要な法制度を理解する 2. 地域・在宅看護実践の前に押さえておくべき心構え、対象者やその家族の対話・コミュニケーションについて理解する 3. 地域・在宅看護実践のために必要な家族を支える援助について理解する 4. 地域・在宅看護実践のために必要な安全対策と事故防止の知識について理解する 5. 暮らしを支えるさまざまな地域・在宅看護技術、看護の実際を理解する 				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	人体の構造について復習する 演習前には演習準備が必要 グループワーク、発表時には、 資料作成と発表準備が必要	テキスト	地域・在宅看護論の基盤（医学書院） 地域・在宅看護論の実践（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護サービスを提供する際に用いられる介護保険制度と医療保険制度の違いを理解する 2. 地域保健を支える法制度について知り、対象の権利を守るための看護師の役割を理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険・医療保険制度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護保険制度 2) 医療保険制度 2. 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護の制度 1) 訪問看護制度の歩み 2) 訪問看護の対象者の特徴 3) 訪問看護の利用者と訪問回数 4) 訪問看護ステーションに関する規程 5) 訪問看護の利用までの手順 6) 訪問看護の費用 7) 訪問看護サービスの提供 8) ケアマネジメントと社会資源の活用 4. 地域保健にかかわる法制度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 福祉サービスに関連する制度 2) 社会福祉法と福祉6法 3) 地域保健を支える法制度 5. 高齢者に関する法制度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法制度 2) 成年後見制度 6. 障害者・難病に関する法制度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害者総合支援法 2) 難病法 7. 公費負担医療に関する法制度 8. 権利保障に関連する制度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の権利擁護 2) 虐待防止に関する法律 3) 守秘義務 4) 個人情報保護 5) サービス提供者の権利擁護 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険制度・医療保険制度の違いについて述べることができる 2. 訪問看護制度の成り立ちからサービスを提供するまでの流れを述べるができる 	講義
3 4	4	暮らしの場で看護をするための心構え <ol style="list-style-type: none"> 1. 「暮らしの場」で必要とされる心構えや看護の要素について理解する セルフケアを支える対	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護実践とは <ol style="list-style-type: none"> 1) その人の「暮らしにくさ」に着目する 2) 暮らしをかえる意思決定を支える 3) 意思決定を支えるとはどういうことか 2. 地域・在宅看護に欠かせない要素 <ol style="list-style-type: none"> 1) チームで支えるという意識をもつ 2) パートナリシップを築く 1. 対象者と看護師のパートナーシップ <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者と看護師のパートナーシップ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護に必要な心構え・看護の要素について述べるができる <ol style="list-style-type: none"> 1. その人がもつ力を最大 	講義

		<p>話・コミュニケーション</p> <p>1. その人のもつ力を発揮できるについて理解する</p> <p>地域・在宅看護における家族を支える看護</p> <p>1. 「暮らしの場」での看護に必要な家族を支える援助について理解する</p> <p>地域・在宅看護における安全をまもる看護</p> <p>1. 「暮らしの場」での看護に必要な安全対策と事故防止の知識について理解する</p>	<p>1) 対象者と看護師のパートナーシップのタイプ</p> <p>2) 対象者と看護師のパートナーシップに必要な要素</p> <p>3) 対象者と看護師とのパートナーシップに基づくケアの効果</p> <p>2. 対象者と看護師の対話・コミュニケーション</p> <p>1) 「ナビゲートする対話」とは</p> <p>2) 「ナビゲートする対話」の実例</p> <p>1. 家族のアセスメントのポイント</p> <p>1) 状況を整理する</p> <p>2) 家族の部分と全体を知る</p> <p>3) 家族がもつセルフケア力を知ろうとする</p> <p>2. 家族の支援</p> <p>1) 家族のもつ価値観や信念を尊重する</p> <p>2) 家族成員間の意見の相違を調整する</p> <p>3) 危機にある家族の負担を軽くして機能回復を支える</p> <p>4) 療養生活と介護を支える</p> <p>5) 家族の意思決定を支援する</p> <p>3. 家族支援の例</p> <p>1. 療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策</p> <p>1) 療養者の暮らしを取り巻くリスク</p> <p>2) 暮らしの安全を確保するための方法</p> <p>(1) 転倒・転落、溺水、火災、熱中症、誤嚥、家族による虐待の予防と対策</p> <p>(2) 医療機器のトラブルの対応・対策</p> <p>(3) 非常事態への対策</p> <p>3) 療養者が安全に外出するための準備と方法</p> <p>2. 地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント</p> <p>1) 地域・在宅看護でリスクが発生しやすい要因</p> <p>2) 地域・在宅看護の場面でおこりうる事故の種類と特徴</p> <p>3) 事故発生の防止</p> <p>4) 事故発生時の対応</p> <p>5) 事業所における事故の予防対策の構築</p> <p>3. 地域・在宅看護における看護師への暴力・ハラスメント</p> <p>1) 訪問先における看護師への暴力・ハラスメント</p> <p>2) 訪問先における看護師への暴力・ハラスメントの防止対策・対応</p>	<p>限に引き出すために必要とされることは何かを述べることができる</p> <p>1. その人を取り巻く家族をアセスメントするためのポイントについて述べるができる</p> <p>1. 療養者の暮らしを取り巻くリスクについて述べるができる</p> <p>2. リスクに応じた安全対策について述べるができる</p> <p>3. 地域・在宅看護実践におけるリスクや状況に合わせた対応について述べるができる</p>	
5 6 7		<p>療養環境調整における地域・在宅看護技術</p> <p>1. 地域・在宅療養生活を支えるために必要な療養環境の調整の技術を理解する</p> <p>活動・休息における地域・在宅看護技術</p> <p>1. 地域・在宅療養生活を支えるために必要な活動・休息の特徴と方法を理解する</p>	<p>1. 療養環境調整に関する地域・在宅看護技術…●</p> <p>1) 地域・在宅看護における療養環境調整</p> <p>2) 療養環境のアセスメント</p> <p>3) 療養環境の実際</p> <p>4) 療養環境調整の例</p> <p>2. 活動・休息に関する地域・在宅看護技術……●</p> <p>1) 暮らしにおける活動・休息とその援助</p> <p>2) 活動に関する地域・在宅看護技術</p> <p>(1) 身体活動のアセスメント</p> <p>(2) 身体活動の支援のポイント</p> <p>①姿勢・体位・寝返り・起き上がり・立ち上がり・移動(体位変換・歩行)・外出の支援</p> <p>②福祉用具の活用</p> <p>(3) 社会活動の支援</p> <p>3) 休息に関する地域・在宅看護技術</p> <p>(1) 睡眠のアセスメント</p> <p>(2) 睡眠の援助のポイント</p>	<p>1. 地域・在宅生活における療養環境の特徴と支援の方法を述べるができる</p> <p>1. 地域・在宅生活における活動・休息の特徴と支援の方法を述べるができる</p>	講義 ●演習
8 9 10		<p>食生活・嚥下における地域・在宅看護技術</p> <p>1. 地域・在宅療養生活を支えるために必要な食事の特徴と方法を理解する</p> <p>2. 地域・在宅療養生</p>	<p>1. 食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術…●</p> <p>1) 在宅での食生活の特徴</p> <p>(1) 暮らしにおける「食」の意義</p> <p>(2) 看護の基本的な考え方</p> <p>2) 食生活・嚥下に関するアセスメント</p> <p>(1) 療養者・環境・介護力のアセスメント</p> <p>(2) 経口摂取開始に向けたアセスメント</p>	<p>1. 地域・在宅生活における食生活の特徴と支援の方法を述べるができる</p> <p>2. 地域・在宅生活における経管栄養・輸液管理の目的・方法を述べる</p>	講義 ●演習

		<p>活を支えるために必要な栄養における医療管理の特徴と方法を理解する</p> <p>排泄における地域・在宅看護技術</p> <p>1. 地域・在宅療養生活を支えるために必要な排泄援助の特徴と方法を理解する</p> <p>清潔・衣生活における地域・在宅看護技術</p> <p>1. 地域・在宅療養生活を支えるために必要な清潔・衣生活の援助の特徴と方法を理解する</p>	<p>3) 経口摂取の援助</p> <p>4) 経口摂取開始への援助の例</p> <p>5) 経管栄養法を受ける療養者の援助</p> <p>6) 在宅中心静脈栄養法 (HPN) を受ける療養者の援助</p> <p>2. 排泄に関する地域・在宅看護技術……………●</p> <p>1) 暮らしにおける排泄とその援助</p> <p>2) 排泄のアセスメント</p> <p>3) 援助の実際</p> <p>(1) セルフケア、活動・参加のための援助</p> <p>(2) 機能の維持・向上を旨とする援助</p> <p>4) 排泄援助の例</p> <p>3. 清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術…●</p> <p>1) 暮らしにおける清潔・衣生活とその援助</p> <p>2) 清潔・衣生活に関するアセスメント</p> <p>(1) 療養者・介護力・経済状況のアセスメント</p> <p>3) 在宅における清潔・衣生活の援助の実際</p> <p>(1) 援助に共通する基本事項</p> <p>(2) 入浴援助・清拭・部分浴 (足浴、手浴)・洗髪・口腔ケア・更衣の援助のポイント</p>	<p>ことができる</p> <p>1. 地域・在宅生活における排泄の特徴と支援の方法を述べることができる</p> <p>2. 地域・在宅生活における留置カテーテル・ストーマ・腹膜透析の目的・方法を述べることができる</p> <p>1. 地域・在宅生活における清潔・衣生活の特徴と支援の方法を述べることができる</p>	
1 1 1 2		<p>苦痛の緩和・安楽確保における地域・在宅看護技術</p> <p>1. 地域・在宅療養生活に必要な苦痛の緩和・安楽確保の援助の特徴と方法を理解する</p> <p>呼吸・循環における地域・在宅看護技術</p> <p>1. 地域・在宅療養生活における管理の目的・方法と療養者と家族への支援の方法を理解する</p>	<p>1. 苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術</p> <p>1) 暮らしにおける苦痛と安楽への援助</p> <p>2) 苦痛と安楽のアセスメント</p> <p>3) 苦痛と安楽に関する援助の方法・ポイント</p> <p>2. 呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術……………●</p> <p>1) 暮らしにおける呼吸・循環とその援助</p> <p>2) 呼吸のアセスメント</p> <p>3) 循環のアセスメント</p> <p>4) 援助の方法</p> <p>(1) セルフケアのための援助</p> <p>(2) 機能の維持・向上を旨とするケア</p> <p>(3) 機能を補う方法の提案と実施</p> <p>①在宅酸素療法 (HOT)</p> <p>②在宅人工呼吸療法 (HMV)</p> <p>5) 呼吸・循環における医療管理レベルの高い療養者の援助</p> <p>(1) 在宅酸素療法 (HOT)・非侵襲的陽圧換気 (NPPV)・気管切開下陽圧換気 (TPPV) を受ける療養者の援助</p> <p>(2) 在宅人工呼吸療法 (HMV) と排痰法</p>	<p>1. 地域・在宅生活における苦痛の緩和・安全確保の目的・方法を述べるができる</p> <p>1. 地域・在宅生活における呼吸・循環に関するアセスメントについて述べるができる</p> <p>2. 地域・在宅生活における呼吸・循環管理の特徴・基本的技術を述べるができる</p>	<p>講義 ●演習</p>
1 3 1 4		<p>創傷管理における地域・在宅看護技術</p> <p>1. 地域・在宅療養生活を支えるために必要な創傷管理・褥瘡ケアの特徴と方法を理解する</p> <p>与薬に関する地域・在宅看護技術</p> <p>1. 地域・在宅療養生活を支えるために必要な薬物の管理の特徴と方法を理解する</p>	<p>1. 創傷管理に関する地域・在宅看護技術</p> <p>1) テープ類による皮膚トラブルの予防とケア</p> <p>(1) テープ類による刺激の種類と皮膚トラブル</p> <p>(2) 皮膚トラブルをおこさないテープの使い方</p> <p>2) 褥瘡の予防とケア……………●</p> <p>(1) 褥瘡とは</p> <p>(2) 褥瘡の予防・褥瘡発生時の対応</p> <p>(3) 治療・ケア計画の実際</p> <p>3) スキンケアの予防とケア</p> <p>(1) スキンケアとは</p> <p>(2) スキンケアのリスクと予防・ケア</p> <p>2. 与薬に関する地域・在宅看護技術</p> <p>1) 地域・在宅看護における与薬</p> <p>2) アセスメントのポイント</p> <p>3) 与薬方法ごとの在宅ケアのポイント</p>	<p>1. 地域・在宅生活における創傷管理・褥瘡ケアの目的・方法を述べることができる</p> <p>1. 地域・在宅生活における内服管理の目的・方法を述べることができる</p>	<p>講義 ●演習</p>
1 5	2	単位認定終講試験			

地域・在宅看護援助論Ⅱ

開講時期	Ⅲ	単位数	2	時間数	45時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験	地域看護領域勤務有
科目目標	1. 地域・在宅看護の特徴と看護の意義を理解する 2. 地域・在宅看護における各時期のポイントを理解する 3. 対象の発達段階や健康障害の特徴に応じた地域・在宅看護の方法を理解する				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	筆記試験60点以上		
時間外学習（予習・復習・課題）	疾病治療、発達段階について復習しておく 講師によって事前課題や復習が必要となる	テキスト	地域・在宅看護論の基盤（医学書院） 地域・在宅看護論の実践（医学書院） 小児臨床看護概論（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	地域・在宅看護の実践と展開 1. 地域・在宅看護の特徴を知り、療養者に合わせた看護の意義と展開方法を理解する	1. 療養者と家族の思いから始まる看護 2. さまざまな人たちが力を合わせる看護 3. 長期的なかわりが必要になる看護 4. 地域・在宅看護における看護過程 1) 看護過程とその意義 2) 地域・在宅看護における看護過程の基本 3) 地域・在宅看護における看護過程の展開 5. 地域・在宅看護過程の展開方法 1) 地域・在宅看護過程の特徴 2) 地域・在宅看護過程における情報収集とアセスメント 3) 地域・在宅看護過程における看護目標の設定・計画 4) 地域・在宅看護の実施と評価 5) 地域・在宅看護過程をさらに発展させる視点 6) 地域・在宅看護の標準化に向けた取り組み	1. 地域・在宅看護で必要とするケアの特徴を述べることができる 2. 地域・在宅看護の看護過程の意義と展開方法について述べるができる	講義
3 4 5	6	地域・在宅における時期別の看護 1. 地域・在宅療養者の時期に合わせた看護を理解する	1. 健康な時期の看護 1) 健康な時期とは 2) 健康な時期のおもな看護目標 3) 健康な時期のおもな看護計画 2. 外来受診期における看護 1) 外来受診期とは 2) 外来受診期のおもな看護目標 3) 外来受診期のおもな看護計画 3. 入院時の看護 1) 入院時とは 2) 入院時のおもな看護目標 3) 入院時のおもな看護計画 4. 在宅療養準備期（退院前）の看護 1) 在宅療養準備期とは 2) 在宅療養準備期のおもな看護目標 3) 在宅療養準備期のおもな看護計画 5. 在宅療養移行期の看護 1) 在宅療養移行期とは 2) 在宅療養移行期のおもな看護目標 3) 在宅療養移行期のおもな看護計画 6. 在宅療養安定期の看護 1) 在宅療養安定期とは 2) 在宅療養安定期のおもな看護目標 3) 在宅療養安定期のおもな看護計画 7. 急性増悪期の看護 1) 急性増悪期とは 2) 急性増悪期のおもな看護目標 3) 急性増悪期のおもな看護計画 8. 終末期の看護（グリーフケアを含む）	1. 療養者の時期に合わせた在宅看護の目標・計画を述べるができる 2. 在宅療養者の特徴に合わせた看護の必要性について述べるができる	講義

			<ul style="list-style-type: none"> 1) 終末期とは 2) 終末期のおもな看護目標 3) 終末期のおもな看護計画 9. 在宅療養終了期の看護 10. 事例を学ぶにあたって 1) 1人ひとりの「物語」に合わせて看護を展開する活動 2) 多様な対象者に多彩なケアを行う活動 		
6 7	4	<p>重症心身障害児の看護</p> <p>1. 疾病や障害をもつ小児が安定した在宅生活を継続できるための支援を理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケアを必要とする小児の特徴 2. 在宅生活を必要とする小児に対する基本的な看護 1) 疾病や障害をもつ小児をめぐる環境 2) 医療的ケアが必要な小児に対する看護の方法と技術 <ul style="list-style-type: none"> ・経鼻経管栄養・胃ろう ・吸引 ・人工呼吸器の管理 3) 日常生活への支援 3. 家族への支援 4. 社会資源の活用およびネットワークづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケアが必要な小児の特徴と支援が理解できる 2. 在宅ケアが必要な小児に対する基礎的な看護が理解できる 3. 疾病や障害をもつ小児を支える家族の現状と支援について理解できる 4. 在宅生活を支える地域の社会資源の活用およびネットワークづくりの意義について理解できる 	講義
8 9	4	<p>COPDの療養者に対する在宅看護</p> <p>1. COPDの療養者が安定した在宅生活を継続するための支援を理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケアを必要とするCOPDの療養者の特徴 2. 在宅生活で必要とする療養者の理解と看護 1) 疾病の概要と病みの軌跡やAPCの理解 2) COPDの療養者に必要な看護の方法と技術 <ul style="list-style-type: none"> ・正しい呼吸法 ・吸入 ・排痰法 ・在宅酸素療法(HOT)の管理 3) 日常生活への支援 3. 家族への支援 4. 社会資源の活用およびネットワークづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 在宅でのケアの特徴が理解できる 2. 在宅での療養者及び家族への支援が理解できる 3. 在宅でのケアにおけるチームケアの役割が理解できる 	講義
10 11	4	<p>ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護</p> <p>1. ALSの療養者が安定した在宅生活を継続するための支援を理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケアを必要とするALSの療養者の特徴 2. 在宅生活で必要とする療養者の理解と看護 1) ALSの経過の理解 2) ALSの療養者に必要な看護の方法と技術 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの工夫 ・吸引 ・胃瘻の管理 ・NPPV・TPPVの管理 3) 日常生活への支援 3. 家族への支援 4. 社会資源の活用およびネットワークづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 在宅でのケアの特徴が理解できる 2. 在宅での療養者及び家族への支援が理解できる 3. 在宅でのケアにおけるチームケアの役割が理解できる 	講義
12 13	4	<p>パーキンソン病の療養者に対する在宅看護</p> <p>1. パーキンソン病の療養者が安定した在宅生活を継続するための支援を理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケアを必要とするパーキンソン病の療養者の特徴 2. 在宅生活で必要とする療養者の理解と看護 1) パーキンソン病の経過の理解 2) パーキンソン病の療養者に必要な看護の方法と技術 <ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援 ・安全の確保 ・精神症状への対応 3) 日常生活への支援 3. 家族への支援 4. 社会資源の活用およびネットワークづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 在宅でのケアの特徴が理解できる 2. 在宅での療養者及び家族への支援が理解できる 3. 在宅でのケアにおけるチームケアの役割が理解できる 	講義
14 15	4	<p>認知症療養者の看護</p> <p>1. 認知症の療養者が在宅での安定した生活を継続するための支援を理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケアを必要とする認知症の療養者の特徴 2. 在宅生活で必要とする療養者の理解と看護 1) 認知症の種類による症状の違いの理解 2) 認知症の療養者に必要な看護の方法と技術 <ul style="list-style-type: none"> ・知覚異常への対応 ・安全の確保 ・既往の身体疾患の管理 ・自尊感情への配慮 3) 日常生活への支援 3. 家族への支援 4. 社会資源の活用およびネットワークづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 在宅でのケアの特徴が理解できる 2. 在宅での療養者及び家族への支援が理解できる 3. 在宅でのケアにおけるチームケアの役割が理解できる 	講義

16	2	リハビリテーションを必要とする療養者の看護 1. 地域での生活を継続するために、在宅療養者が潜在能力を活かし自立した生活を再構築するための支援を理解する	1. リハビリテーションの概念とリハビリテーション看護 1) 在宅療養者が必要としているリハビリテーション看護とは 2) リハビリテーション看護の立場からみた国際生活機能分類（ICF） 2. リハビリテーションの実際 1) 運動機能障害とリハビリテーション 2) 生活リハビリテーション 3. 福祉用具の活用・住宅改修の必要性 1) 福祉用具の種類と特徴 2) 住宅改修の必要性とポイント	1. リハビリテーションの概念と基本的アプローチが理解できる 2. リハビリテーションの基本的な援助方法が理解できる 3. 住宅改修の必要性と福祉用具の活用が理解できる	講義
17 18 19	6	終末期にある療養者の看護 1. 在宅療養者と家族が終末期の時間を可能な限り安楽に過ごし、死を迎えるための支援を理解する	1. 在宅における終末期ケアの特徴 2. 終末期における在宅療養者への支援 1) 在宅での終末期ケアに必要なアセスメント 2) 在宅での疼痛コントロール 3) HPNの適応と条件・管理方法と留意点 3. 在宅での死の看取り 4. 家族への支援 1) 在宅終末期の療養者を支える家族の理解 2) 家族への支援に必要なアセスメント 3) 家族が終末期を理解し、協力しあうことができるための支援 4) 介護に必要な知識・技術を習得できるための支援 5) 介護負担を軽減するための支援 6) 介護者や家族への精神的・心理的支援 7) 緊急時の対応 8) グリーフケア 5. チームケア 1) 終末期におけるチームケアの特徴及び必要性 2) 医療機関や関係機関、関係職種、地域のボランティアなどの専門性と役割	1. 在宅での終末期ケアの特徴が理解できる 2. 在宅で死を迎える療養者及び家族への支援が理解できる 3. 在宅での終末期ケアにおけるチームケアの役割が理解できる	講義
20 21 22	6	在宅療養者への日常生活支援の実際 1. 安定した在宅生活を継続するための支援を理解する	1. 状況に応じた医療ケアの実際 1) 療養者の状況に応じた援助 (1) 呼吸法……………● (2) 吸引……………● (3) 経鼻経管栄養法・胃瘻……………● (4) 移送……………● (5) TPN……………● (6) 排便・浣腸……………●	1. 在宅療養者の状況に応じた日常生活援助の実際が理解できる	講義
23	1	単位認定終講試験			

地域・在宅看護援助論Ⅲ

開講時期	Ⅲ	単位数	2	時間数	4 5 時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験	地域看護領域勤務 有
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域共生社会における他職種連携・他職種チームでの協働について理解する 2. 多様な場における地域・在宅看護マネジメントを理解する 3. 地域・在宅看護活動の実際を調査し、地域ニーズと暮らしの場の実際を理解する 4. 看護過程の展開を理解する 5. 訪問看護時のマナーを理解する 				
評価方法	筆記試験100点、課題提出30点	認定基準	60点以上で合格、事例展開18点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	講師によって事前課題や復習が必要となる	テキスト	地域・在宅看護論の基盤（医学書院） 地域・在宅看護論の実践（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働 1. 多職種連携と他職種の協働について理解する 2. 多職種・他職種間で協働する際の看護師の役割について理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師が連携・協働において果たす役割 2) 多職種チームでかかわる意義 3) 地域・在宅看護実践における多職種チーム 2. 医療・福祉・介護関係者との連携・協働 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域共生社会の実現に向けた連携 2) 地域・在宅看護の現場における連携・協働 3. 医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域資源の可視化 2) 地域資源の開発プロセス 3) インフォーマルな資源とフォーマルな資源の連携・協働 4. 地域共生社会を実現するために <ol style="list-style-type: none"> 1) ケアの総量を増やす 2) 動的な調和を繰り返す 3) 地域共生の文化の醸成 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種との連携、他職種との協働の意義について述べる事ができる 2. 多職種との連携、他職種との協働における看護師の役割について述べる事ができる 	講義
3 4	4	地域・在宅看護マネジメント 1. 地域・在宅看護におけるマネジメントについて理解する 2. 多様な場で必要とされる地域・在宅看護マネジメントについて理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護マネジメントとは <ol style="list-style-type: none"> 1) マネジメントの考え方と地域・在宅看護マネジメント 2) ケアマネジメントの考え方と地域・在宅看護マネジメント 3) 地域・在宅看護マネジメントのとらえ方 2. 多様な場における地域・在宅看護マネジメント <ol style="list-style-type: none"> 1) 病棟で行う地域・在宅看護マネジメント-退院支援- 2) 外来における地域・在宅看護マネジメント 3) 介護保険制度上の地域・在宅看護マネジメント 4) 地域住民とともに行う地域・在宅看護マネジメント 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護に必要とされるマネジメントについて述べる事ができる 2. 地域・在宅看護マネジメントが必要とされる場について述べる事ができる 	講義
5	2	地域・在宅看護活動の創造と展開例 1. 地域・在宅看護活動を創造する意義や方法について理解する 2. さまざまな地域・在宅看護活動の実際展開例について理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護活動の創造 2. 「暮らしの保健室」の例 <ol style="list-style-type: none"> 1) 「暮らしの保健室」とは 2) 「暮らしの保健室」の創設の経緯 3) 「暮らしの保健室」の活動 3. さまざまな地域・在宅看護活動の展開例 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもが地域の人々となつがる場としての例 2) がん患者や家族の相談の場としての例 3) 地域の高齢者と看護学生との交流としての例 4. 地域・在宅看護活動の創造のための考え方 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護活動の意義や方法について述べる事ができる 2. 地域・在宅看護活動の創造について、自己の考えを述べる事ができる 	講義
6 7 8	6	地域・在宅看護活動の創造の実際 1. 地域・在宅療養を支える資源と活用に	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす人々の特徴、地域の特徴の理解 2. 暮らしを支える施設・機関・コミュニティの理解 3. 「暮らしを支える支援」について学習発表 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域環境（自然・社会など）やそこで暮らす人々の特徴とさまざまな支援のつながりを調べ、発表 	グループワーク

		ついて理解する		することができる	
9 10 11	6	事業者・労働者に対して行う健康支援活動 1. 産業看護について理解することができる 2. 産業看護活動の実際を知ることができる	1. 産業看護の定義 2. 産業看護職の役割 3. 産業看護職の職務 4. 産業看護活動の実際 5. これからの産業看護 6. 勤労者看護と産業看護との連携	1. 職場の安全管理と産業看護活動を理解できる	講義
12 13	4	退院支援・退院調整 1. 退院時における医療機関看護師の役割を理解する	1. 退院支援・退院調整とは 2. 退院支援が必要な患者・情報 3. 退院支援・退院調整における段階プロセス 4. 患者・家族への支援の実際 5. 退院支援・退院調整における患者・家族への支援のポイント	1. 退院支援・退院調整の定義を述べることができる 2. 退院支援が必要な患者や情報の内容を述べるができる 3. 患者・家族への退院支援のポイントを述べるができる	講義
14	2	地域包括ケアシステム 1. 在宅療養生活における関係機関・関係職種間の連携や協働の実際がわかる	1. 地域包括支援センターの機能と業務 2. 配置されている職種の専門性 3. 事業の流れと内容 1) 介護予防ケアマネジメント 2) 総合相談・支援 3) 権利擁護 4) 包括的・継続的ケアマネジメント 5) 地域ケア会議 4. 地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉の連携のポイント	1. 地域包括ケアシステムの必要性を述べるができる 2. 地域包括ケアシステムに携わる関係機関・関係職種の専門性がわかる 3. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割・連携のポイントを述べるができる	講義
15	2	地域・在宅看護論実習に必要な準備 1. 訪問看護での実習で必要とされる学習姿勢・態度・準備について理解する	1. 実習に向けた心構え 2. 服装や身だしなみ 3. 態度と行動 4. 実習における学習方法 5. 感染予防 6. 事故・災害等発生時の対応 7. 個人情報の取り扱い	1. 訪問看護実習で必要とされる学習姿勢・態度・準備について述べるができる	講義
16 17 18 19 20	10	【看護過程の展開】 1. 地域・在宅看護過程の展開を理解する	地域・在宅看護過程 1. 地域・在宅看護過程の特徴 2. 看護介入に必要な情報収集・アセスメント 3. 看護計画の立案 4. 看護実践の評価 5. 看護計画の追加・修正 6. シミュレーション演習 7. 看護実践の評価 8. 看護計画の追加・修正	1. 事例を通して地域・在宅看護過程の特徴を述べるができる 2. 在宅療養者とその家族の生活上の課題を述べるができる 3. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活援助の方法と技術を述べるができる 4. 医療ケアを必要とする療養者やその家族に応じた安全な管理方法を計画することができる 5. 在宅療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について述べるができる 6. 看護計画も基づき、具体的な関わりについて実施することができる 7. 実施した看護を評価し看護計画の追加修正ができる	講義 グループワーク
21 22	4	事例にみる地域・在宅看護、社会資源の活用 1. 療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について検討できる	1. 地域・在宅看護過程の目的 2. 地域・在宅看護過程の特徴 3. 地域・在宅看護過程の概要 4. 総合機能関連図 5. 社会支援関連図	1. 療養者と家族の生活をみる視点、理解・意向をみる視点、強みと弱みをみる視点 2. 総合機能の4領域「疾患・医療ケア」「活動」「環境」「理解・思考」を構成する要素がわかる	講義
23	1	単位認定終講試験			

專 門 分 野

成 人 看 護 学

成人看護学概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	成人看護領域実務病棟勤務経験有		
科目目標	1. 人間のライフサイクルにおける成人期の特徴を身体・精神・社会的側面から理解する 2. 成人保健に関する施策やヘルスケアシステムについて学ぶ 3. 勤労者である成人の特徴と看護の役割について理解する				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	医療・看護に関わる動向について 日頃から関心を持つこと 言葉の定義について事前学習	テキスト	成人看護学総論（医学書院） 国民衛生の動向		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	成人と生活 1. 大人とは何かを 考えることができる 2. 成人の特徴を 理解できる	1. 大人になること、大人であること 1) 生涯発達の特徴 2) 各発達段階の特徴（青年期・壮年期・中年期） 2. 働いて生活を営むこと 1) 労働の実態と社会状況 2) 家族の形態 3) 人生のできごとへの対処 4) 人生の意味の探求	1. 成人の生活について自分の 考えを述べるができる 2. 成人期の発達段階の特徴を とらえ、現在の社会状況と成 人の健康・生活に与える影響 について述べるができる	講義
3 4	4	生活と健康 1. 成人の生活と 健康について 理解する 2. 成人保健対策 の概要を理解 する	1. 成人を取り巻く環境からみた健康 1) 成人を取り巻く環境 2) 成人のライフスタイルの特徴 3) 勤労者とは (1) 仕事をもち働くこと 4) 成人の健康の状況 (1) 生と死の動向 (2) 健康格差 (3) 職業性疾病・業務上疾病 (4) 受療状況 (5) 生活習慣病 (6)メンタルヘルス 2. 生活と健康をまもりはぐくむシステム 1) 保健・医療・福祉にかかわる施策 2) 保健・医療・福祉システムの連携	1. 成人期における人々にとっ ての健康とは何かを述べる ことができる 2. 生活の現状を知りその特徴 を述べるができる 3. 保健・医療・福祉システム について述べるができる	講義
5 6 7	6	成人への看護ア プローチの基本 1. 成人の看護の 基本を理解す る 2. 成人への看護 アプローチの 方法がわかる	1. 生活の中で健康行動を生みはぐくむ援助 1) 大人の健康行動のとらえ方 2) 行動変容を促進する看護アプローチ 2. 健康問題をもつ大人と看護師の関係 1) 患者―看護師関係の構築・発展のプロセス 3. 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 4. チームアプローチ 5. 看護におけるマネジメント 6. 看護実践における倫理的判断 7. 意思決定支援 8. 家族支援	1. 成人期の特徴をふまえた 看護アプローチの方法を理 解することができる 2. 看護における倫理的課題に ついて考えることができる	講義
8 9 10 11 12 13 14	14	成人の健康レベル に対応した看護 1. 成人の健康レ ベルに対応し た成人看護の 役割と機能に ついて理解す る	1. 成人の健康レベルに対応した看護 1) ヘルスプロモーションと看護 2) 健康をおびやかす要因と看護 3) 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 4) 慢性病との共存を支える看護 5) 障害がある人の生活とリハビリテーション 6) 人生の最期のときを支える看護 7) 療養の場を移行する人々への看護	1. 成人の健康レベルに対応し た成人看護の役割と機能 について考えることがで きる	講義
15	2	単位認定終講試験			

成人看護学援助論 I (急性期・周手術期)

開講時期	Ⅲ	単位数	2	時間数	60時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験		消化器外科病棟勤務経験有 手術室勤務経験有 循環器内科病棟勤務経験有 大阪労災病院勤務 専門看護師・ 認定看護師	
科目目標	1. 勤労者である成人の特徴と看護の役割について理解する 2. 急性期にある人の回復支援について理解する 3. 急性期にある人の病態や検査・治療、および周手術期にある人の心身に及ぼす影響を学び、看護師の役割を理解する				
評価方法	筆記試験 200点 課題提出 30点	認定基準	筆記試験120点以上、事例展開18点以上で合格		
時間外学習(予習・復習・課題)	事例展開は大腸がん罹患の勤労者を対象とし、全体像、一次・二次アセスメント、NCP立案、シミュレーション、自己学習やグループワークで行う	テキスト	成人看護学総論 臨床外科総論 成人看護学基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) NANDA-I看護診断:定義と診断(医学書院) 周手術期看護論(ヌーベルヒロカワ) 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	外科医療の基礎 1. 手術侵襲と生体反応を理解する	1. 急性期にある人の特徴 2. 手術侵襲と生体の反応 1) 手術侵襲とは 2) 侵襲に対する生体の反応 3) サイトカインによる生体調節機構	1. 手術侵襲について述べるができる 2. 生体反応について述べるができる	講義
2	2	救急看護の基礎 1. 救急看護の特徴的な知識を習得する	1. 救急処置法の実際 1) 救急処置の範囲と対象 2) 救急処置法の原則と実際 2. 救急看護の実際 1) 救急医療の現状 2) 救急看護の役割 3) 救急患者発生時の看護	1. 救急処置法を理解することができる 2. 救急処置の基本を述べることができる 3. 救急看護の役割について述べることができる	講義
3	2	手術前患者の看護 1. 手術前における看護の役割と実際を理解する	1. 外来における手術前の患者の看護 1) 診断過程における援助 2) 心の整理と意思決定の支援 3) 全身状態を整えるための支援 2. 手術前の具体的援助 1) 心理面を整える 2) 全身状態を整える 3) 手術前日の準備 4) 手術当日の看護	1. 手術前における看護師の役割について理解できる 2. 手術前に必要な観察・判断と看護の実践方法を述べるができる	講義
4	2	外科的治療を支える看護(麻酔) 1. 麻酔の基本を理解する 2. 麻酔が身体へ及ぼす影響を理解する 3. 麻酔に関する看護の役割を理解する	1. 麻酔法 1) 麻酔とは 2) 麻酔の種類 3) 術前管理 4) 術中管理 5) 術後管理 6) 全身麻酔 7) 局所麻酔	1. 麻酔薬の薬理機序についての知識を習得し、麻酔を受ける患者の身体の管理について理解する	講義
5	2	手術中患者の看護 1. 手術中の看護の役割について理解する	1. 手術中の看護の要点 1) 手術療法と患者の状況 2) 手術室の安全管理	1. 手術中に必要な観察・判断と看護の実践方法を述べるができる	講義

			<p>2. 手術室における看護の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 入室前の看護 2) 入室時の看護 3) 麻酔導入時の看護 4) 手術中の看護 5) 手術終了時の看護 6) 病棟への引き継ぎ 3. 手術室の環境管理 		
6 7 8	6	<p>手術後患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術後に起こりやすい合併症について理解する 2. 手術後の看護の役割について理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術後の回復を促進するための看護 2. 術後合併症の発生機序 <ol style="list-style-type: none"> 1) 術後出血 2) 循環器合併症 3) 呼吸器合併症 4) 精神・神経系合併症 5) 代謝・内分泌系合併症 6) 腎・泌尿器系合併症 7) 術後感染症 3. 起こりやすい合併症の予防と発症時の対応 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術後に起こりやすい合併症について述べるができる 2. 手術後に必要な観察・判断と看護の実践方法を述べるができる 	講義
9 10	4	<p>集中治療を受ける患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルケアのための特徴的な看護の知識を理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集中治療・看護の概念と役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命危機状態にある患者の特徴 2) 集中治療における看護の役割 2. 集中治療室（ICU） <ol style="list-style-type: none"> 1) ICUとは 2) ICUの管理・運営と設備的条件 3. 集中治療における看護の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 集中治療を受ける前の看護 2) 集中治療中の看護 3) 回復に向けた看護 	<ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルケアに必要な観察・判断と看護の実践方法を述べるができる 	講義
11 12	4	<p>急性の循環機能障害のある人の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環機能障害の特徴と看護の実際を理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 虚血性心疾患・弁膜症・心不全の患者の看護 2. 心臓カテーテル検査を受ける患者の看護 3. 開心術を受ける人の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 循環機能のアセスメント 2) 治療と看護の実際 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患とその治療について理解し、観察と適切な判断・看護援助の方法が理解できる 	講義
13 14 15	6	<p>急性の脳・神経機能障害のある人の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳・神経機能障害の特徴と看護の実際を理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳血管障害・脳腫瘍の人の看護 2. 開頭術を受ける人の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳神経機能のアセスメント 2) 治療と看護の実際 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患とその治療について理解し、観察と適切な判断・看護援助の方法が理解できる 	講義
16 17 18 19 20 21	12	<p>急性の栄養摂取・消化機能障害のある人の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養摂取・消化機能障害の特徴と看護の実際を理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食道癌・胃癌・大腸癌・直腸癌・肝臓癌・膵臓癌・胆嚢結石の人の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養摂取・消化機能のアセスメント 2) 治療と看護の実際 2. 開腹手術・腹腔鏡下手術を受ける人の看護 3. 内視鏡の検査と治療の看護の実際 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患とその治療について理解し、観察と適切な判断・看護援助の方法が理解できる 	講義
22 23	4	<p>急性の運動機能障害のある人の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動機能障害の特徴と看護の実際を理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨折の人の看護 2. 脊椎に疾患を持つ人の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 運動機能のアセスメント 2) 治療と看護の実際 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患とその治療について理解し、観察と適切な判断・看護援助の方法が理解できる 	講義
24	2	<p>急性の呼吸機能障害のある人の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸機能障害の特徴と看護の実際を理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肺癌の人の看護 2. 肺切除術を受ける人の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 呼吸機能のアセスメント 2) 治療と看護の実際 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患とその治療について理解し、観察と適切な判断・看護援助の方法が理解できる 	講義
25 26 27 28 29	10	<p>【看護過程の展開】</p> <p>周手術期にある勤労者患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期の患者の看護展開ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護介入に必要な情報収集・アセスメント 2. 看護計画の立案 3. 看護実践の評価 4. 看護計画の追加・修正 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期にある勤労者の成人期患者の事例を用いて回復に向けての身体管理に重要な診療に伴う技術の基本を学び、看護過程の展開方法が理解できる 	講義 グループワーク
30	2	単位認定終講試験			

成人看護学援助論Ⅱ (慢性期・回復期)

開講時期	Ⅲ	単位数	2	時間数	45時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験	慢性疾患棟勤務経験有 大阪労災病院勤務 認定看護師		
科目目標	1. 勤労者である成人の慢性期・回復期における疾病の特徴と対象を理解する 2. 疾病と共に生きる過程、回復過程の支援を学び看護の役割を理解する				
評価方法	筆記試験 160点 課題提出 30点	認定基準	筆記試験96点以上、事例展開18点以上で合格		
時間外学習 (予習・復習・課題)	人体の構造と機能、基本的な病態 生理や診断を理解 疾病に応じた看護の役割について 自己学習	テキスト	成人看護学総論 成人看護学 (医学書院) 健康行動理論の基礎 (医歯薬出版)		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	慢性病との共存を支える看護 1. 慢性病患者について理解する 2. 慢性病患者のセルフマネジメントの必要性和、その支援方法について理解する	1. 慢性病患者の理解 1) 慢性病患者の経験する無力感 2) 病みの軌跡 3) 首尾一貫感覚 2. 慢性病との共存を支える看護の実践 1) エンパワメント 2) セルフケアとセルフマネジメント 3) セルフマネジメント支援の構成要素	1. 慢性病の概念と慢性的な病状や治療が患者の身体・精神・社会的側面に与える影響を述べる事ができる 2. 患者を支援するための方法について述べる事ができる 3. 慢性病を持ちながら生活するための看護について述べる事が出来る	講義
2 3	4	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	1. 糖尿病の人の看護 1) 糖尿病の診断・治療・合併症における看護の実際 2) 糖尿病患者の療養教育の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べる事ができる	講義
4 5	4	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	2. 腎不全、透析導入の人の看護 1) 血液透析・腹膜透析・腎臓移植を受ける患者の教育と看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べる事ができる	講義
6	2	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	3. 心不全の人の看護 1) 食事療法、薬物療法、安静療法を受ける患者の教育と看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べる事ができる	講義
7	2	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	4. 肝炎の人の看護 (慢性肝炎、肝硬変を含む) 1) 安静療法、食事療法、薬物療法を受ける患者の教育と看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べる事ができる	講義

8 9	4	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	5. 血液・造血管疾患のある人の看護 1) 造血管腫瘍、免疫機構の障害をもつ患者の特徴と看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べることができる	講義
10	2	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	6. 肺結核の人の看護 1) 結核患者の療養教育・服薬支援・ソーシャルサポートと看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べることができる	講義
11	2	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	7. 関節リウマチの人の看護 1) 手術療法・薬物療法・リハビリテーションを受ける患者の療養教育と看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べることができる	講義
12	2	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	8. 脊髄損傷の人の看護 1) 脊髄損傷患者の療養教育・リハビリテーションを受ける患者の看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べることができる	講義
13 14	4	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	9. 免疫機能低下のある人の看護 1) 膠原病の人の看護の実際 2) エイズの人の看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べることができる	講義
15	2	看護における学習支援 1. 看護における教育指導の目的と意義が理解できる 2. 健康教育における看護師の役割について理解できる 3. 成人の健康生活を促すための看護技術について理解できる	1. 健康状態の変化に伴う学習支援 2. 看護の中に含まれる教育・指導 1) 個人を対象とした学習支援 2) 集団を対象とした学習支援 3. 学習者である患者への看護技術 1) エンパワメントエデュケーション 2) セルフマネジメント 3) コンプライアンス（アドヒアランス）を高めるための知識と技術	1. 健康状態の変化に応じた教育・指導の特徴について述べることができる 2. 看護における教育指導の意味を述べることができる 3. 健康教育のありかたについて述べることができる 4. エンパワメントアプローチの方法を述べることができる 5. セルフマネジメントアプローチの方法を述べることができる	講義
16 17	4	健康行動理論の基礎 1. 学習援助型健康教育の諸理論と実際について理解することができる	1. 健康行動理論 1) 健康信念モデル（HBM） 2) 変化ステージモデル 3) 自己効力感（セルフエフィカシー） 4) 計画的行動理論 5) ストレスとコーピング 6) ソーシャルサポート（社会的支援） 7) コントロール所在（ロカス・オブ・コントロール）	1. 健康信念モデルについて説明することができる 2. 健康信念モデルを使って、人が健康に良いとされる行動をとるための条件、関わりの方向性を考えることができる 3. 自己効力感について説明することができる 4. 計画的行動理論について説明することができる 5. 計画的行動理論を使って、人の「やる気」と行動との関係を考え、関わりの方向性を考えることができる	講義

18 19 20 21	8	<p>【看護過程の展開】</p> <p>1. 事例を通して、糖尿病をもつ勤労者の看護計画が立案できる</p> <p>1. 事例を通して、患者の健康行動をアセスメントすることができる</p> <p>2. 健康教育計画を立案することができる</p>	<p>1. 看護介入に必要な情報収集・アセスメント</p> <p>2. 看護計画の立案 *個人ワーク</p> <p>3. 事例に応じた健康行動理論の展開 *グループワーク</p>	<p>1. 看護過程を通して、糖尿病の人の看護について述べることができる</p> <p>2. 看護介入に必要な情報収集ができる</p> <p>3. 看護計画の立案ができる</p> <p>4. 看護計画に基づいて健康教育を考えることができる</p> <p>5. 糖尿病患者の事例を用いて、行動変容や強化を促すための具体的な関わりについて考えることができる</p> <p>6. 糖尿病患者の事例を使い、健康行動理論で学んだ理論を用いて患者の健康行動をアセスメントすることができる</p>	講義 グループワーク
22	2	<p>健康教育の実践</p> <p>1. 事例を通して、糖尿病をもつ勤労者の看護過程の展開ができる</p>	<p>1. 事例に応じた健康行動理論の展開 *シミュレーション演習</p> <p>2. 看護実践の評価</p> <p>3. 看護計画の追加・修正</p>	<p>1. 糖尿病患者の事例を用いて、看護計画もに基づき、行動変容や強化のための具体的な関わりについて実施できる</p> <p>2. 事例展開で計画した教育内容を実際に作成し、共有することができる</p> <p>3. 実施した看護を評価し、看護計画の追加修正ができる</p>	演習
23	1	単位認定終講試験			

成人看護学援助論Ⅲ（終末期）

開講時期	Ⅳ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験		緩和ケア病棟勤務経験有 専任教員 大阪労災病院勤務 認定看護師	
科目目標	1. がん治療の場と看護の実際を理解する 2. 緩和ケアにおける看護介入の実際を理解する 3. 緩和ケアを必要とする患者の家族の悲嘆やおかれた状況、支援の方法を理解する 4. 自己の死生観を洞察することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	がん医療の動向や政策などに関する報道に関心をもつこと 各講義終了後は復習を行い、緩和ケアや死生観について、みずからの考えを深めること	テキスト	緩和ケア がん看護学 臨床放射線医学 成人看護学総論 臨床薬理学 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	緩和ケアの現状と展望 1. 緩和ケアの歴史と発展について理解する 2. 緩和ケアの定義と関連する概念を理解する 医療スタッフのケア 1. 臨床での介入や医療者のセルフケアに活用されるマインドフルネスについて、その概念や実践方法を理解する	1. 緩和ケアの歴史と発展 1) 世界の緩和ケア 2) 我が国の緩和ケア 2. 緩和ケアの概念 1) 緩和ケアの定義 2) 全人的苦痛 3) Quality of Life (QOL) 4) 全人的ケア 3. 緩和ケアの展望 1) 緩和ケアの教育・研修 2) 緩和ケア提供体制の整備・拡充 3) 心にかける 1. ストレスマネジメント 1) 医療者のストレス 2) レジリエンス 3) ストレスケア 2. マインドフルネス 1) マインドフルネスの背景 2) マインドフルネスによる医療スタッフへのケア	1. 緩和ケアが、どのように発展してきたのか、世界とわが国のそれぞれにおける流れを述べることができる 2. WHOによる緩和ケアの定義を述べることができる 3. 全人的苦痛とはなにか、全人的ケアとはなにかを述べるができる 1. ストレスに対して行うケアには、どのようなことが有効か、個人で行うものと組織で行うものについて述べるができる 2. マインドフルネスの実践方法として、正式な練習と日常生活で行うものそれぞれにどのようなものがあるか述べるができる	講義
2 3 4	6	がん看護の実際 1. がんに対する薬物療法・放射線療法についてその流れと実際について理解する 2. 薬物療法・放射線療法のそれぞれについての看護のポイントを理解する	1. がんの病態と臨床経過 2. がんの治療 1) 薬物療法 2) 放射線療法 3. がん治療に対する看護 1) 薬物療法における看護 2) 放射線療法における看護 4. がん治療の場と看護 1) 外来がん看護	1. 薬物療法に関して、導入から実施、副作用への対応までの一連の流れ、抗悪性腫瘍薬の特徴、薬物療法の治療計画（レジメン）、薬物療法の限界、具体的な薬物療法の実際について説明できる 2. 放射線療法に関して、治療法の特徴、計画から実施、その後の観察までの一連の流れ、具体的な治療法の実際について説明できる	講義

				<p>3. 薬物療法・放射線療法のそれぞれについて、アセスメントから準備教育、意思決定支援、治療中・治療後の症状の管理や合併症予防、セルフケア支援について述べることができる</p> <p>4. 外来がん看護の役割を述べることができる</p>	
5	2	<p>緩和ケアにおけるチームアプローチ</p> <p>1. 緩和ケアにおけるチーム医療の重要性を理解する</p> <p>2. それぞれのメンバーがそのような役割をどのように果たし、連携するのかを理解する</p> <p>緩和ケアに関する教育</p> <p>1. 基礎教育と継続教育における教育の在り方を理解する</p> <p>緩和ケアにおける研究</p> <p>1. 緩和ケアにおける研究の意義やその特徴を理解する</p>	<p>1. 緩和ケアにおけるチームアプローチの意義</p> <p>1) 生命をおびやかす疾患の診断を受けたとき</p> <p>2) 侵襲を伴う治療を選択するとき</p> <p>3) 人生の最終段階が近づいているとき</p> <p>2. チームアプローチにおいて求められる専門性</p> <p>1) 専門性とは</p> <p>2) 緩和ケアにおける看護師に求められる専門性</p> <p>3) さまざまなチームメンバー</p> <p>3. チームアプローチにおけるメンバーシップ</p> <p>1) チームのネットワーク</p> <p>2) メンバーシップとリーダーシップ</p> <p>3) メンバーとのコミュニケーション</p> <p>1. 緩和ケアの基礎教育</p> <p>2. 緩和ケアにおける継続教育</p> <p>1) ジュネラリストの育成</p> <p>2) スペシャリストの育成</p> <p>3. 緩和ケアにおける研究と倫理、研究の計画と実施</p>	<p>1. 緩和ケアにおけるチーム医療の中で、看護師はどのような役割を担い責任を果たしていくのかを述べるができる</p> <p>2. 地域がん診療連携拠点病院としての大阪労災病院の役割を述べるができる</p> <p>3. 看護師に対する緩和ケア教育がどのように行われているか述べるができる</p> <p>4. 緩和ケアの研究に特有の問題にはどのようなものがあるか述べるができる</p>	講義
6	2	<p>緩和ケアにおけるコミュニケーション</p> <p>1. 緩和ケアに必要なコミュニケーション技術について理解できる</p>	<p>1. コミュニケーションにおける基本的知識</p> <p>1) 医療におけるコミュニケーション</p> <p>2) コミュニケーションの種類</p> <p>3) コミュニケーションの基本スキル</p> <p>2. 看護師のコミュニケーションの意義</p> <p>3. コミュニケーションに関する患者と医療者の認識</p> <p>1) コミュニケーションに関する医療者の意識</p> <p>2) コミュニケーションに関する患者の意向</p> <p>4. コミュニケーションを支えるスキルとプログラム</p> <p>1) コミュニケーション・スキル・トレーニング・スキル</p> <p>5. 難しい場面でのコミュニケーション</p> <p>1) 患者が怒りを表出した時</p> <p>2) 患者が「死にたい」と訴えたとき</p> <p>3) 患者が自身の話をしないとき</p> <p>4) 患者が治療をあきらめたくないとき話すとき</p>	<p>1. 緩和ケアにおけるコミュニケーション技術を学び、難しい場面でのコミュニケーションについて、いくつかの方法を述べることができる</p>	講義
7	2	<p>緩和ケアにおける倫理的課題</p> <p>1. 緩和ケアにおける倫理的課題を検討するため</p>	<p>1. 生命倫理と看護倫理</p> <p>1) 倫理</p> <p>2) 生命倫理</p> <p>3) 臨床倫理と看護倫理</p>	<p>1. 意思決定支援における医療従事者の役割を述べることができる</p> <p>2. 緩和ケアにおける倫理的課題に</p>	講義

		<p>に、倫理・生命倫理・看護倫理の概要について理解する</p> <p>2. 患者の意思決定支援における医療従事者の役割について理解できる</p>	<p>4) 看護者の倫理綱領</p> <p>5) 生命倫理の4原則</p> <p>2. 意思決定支援</p> <p>1) インフォームド・コンセント</p> <p>2) アドバンス・ケア・プランニング</p> <p>3. 緩和ケアをめぐる倫理的課題</p> <p>1) 倫理的問題</p> <p>2) 倫理問題への対応</p> <p>3) 倫理委員会</p>	<p>対し、倫理的な視点からどのように対応したらよいか、自分の考えを述べることができる</p>	
8 9 10 11	8	<p>全人的ケアの実践</p> <p>1. 緩和ケアにおける看護独自のアプローチについて理解する</p> <p>身体的ケア</p> <p>1. がん患者の身体症状の特徴を理解する</p> <p>2. 主要な身体症状のマネジメントとケアを理解する</p> <p>精神的ケア</p> <p>1. 緩和ケアにおける精神的ケアが全人的苦痛の理解と関連していることを理解する</p> <p>社会的ケア</p> <p>1. 患者とその家族が経験する社会的苦痛について理解する</p> <p>2. 社会的存在としての患者・家族の闘病・療養生活を支える社会資源について理解する</p> <p>スピリチュアルケア</p> <p>1. 死が近いことを意識している人々の人生にかかわる深い苦悩（スピリチュアルペイン）について理解する</p>	<p>1. 身体的ケア：苦痛をやわらげ日常生活を営むための援助</p> <p>1) 身体的苦痛のマネジメント</p> <p>2) 日常生活を整える援助</p> <p>2. 心理的ケア：病によるストレスへの対処の力とその支援</p> <p>1) 生命をおびやかす疾患と治療による心への影響と適応</p> <p>2) 精神状態のアセスメントと方法</p> <p>3) 主な精神症状・精神状態と対応</p> <p>4) 精神科との連携</p> <p>5) 支持的精神療法</p> <p>6) 認知行動療法</p> <p>3. 社会的ケア：住み慣れた地域での暮らしの支援</p> <p>1) 暮らしの中の多様な支援</p> <p>2) 疾患・障害をもつ療養者の暮らしの支援</p> <p>3) 在宅療養への移行支援</p> <p>4. スピリチュアルケア：「生・老・病・死」と向き合う苦を支える</p> <p>1) 病の経験と苦悩</p> <p>2) 全人的苦痛とスピリチュアルケアの必要性</p> <p>3) スピリチュアルについての考え方</p> <p>4) スピリチュアルペインについての考え方</p> <p>5) スピリチュアルペインのアセスメント</p> <p>6) スピリチュアルケアの実践</p>	<p>1. 緩和ケアにおける看護介入の特徴を述べるができる</p> <p>2. 主要な身体症状のマネジメントとケアにおける看護師の具体的な役割を述べるができる</p> <p>3. 主要な身体症状の薬物療法の概要を述べるができる</p> <p>4. がんに対する心理的反応、危機介入、コーピングの理論を活用して、がん患者の精神的ケアを述べるができる</p> <p>5. 各精神症状の診断とマネジメントについて述べるができる</p> <p>6. 社会的苦痛にはどのようなものがあるか述べるができる</p> <p>7. 社会的苦痛に対して、どのようなアプローチがあるかを述べるができる</p> <p>8. 勤労者医療を推進する労災病院の役割機能を理解し、がん患者の就労支援に必要な援助を述べるができる</p> <p>9. スピリチュアルペインの表現・内容・評価の方法を述べるができる</p> <p>10. スピリチュアルペインに対する基本的ケアを述べるができる</p> <p>11. スピリチュアルペインの内容に対応する日常的ケアを述べるができる</p>	講義
12	2	<p>緩和ケアの広がり</p> <p>1. さまざまなライフサイクルにおける緩和ケアの広がりを理解する</p> <p>2. 悪性腫瘍や心不全、呼吸器疾患などさまざまな疾患を対象とした緩和ケアの広がりを理解する</p> <p>3. さまざまな療養の場における緩和ケアの広がりを理解する</p>	<p>1. ライフサイクルにおける広がり</p> <p>1) 小児</p> <p>2) 思春期・若年成人（AYA世代）</p> <p>3) 高齢者</p> <p>2. さまざまな疾患における広がり</p> <p>1) 悪性腫瘍</p> <p>2) 心疾患</p> <p>3) 呼吸器疾患</p> <p>4) 神経難病</p> <p>5) 脳血管疾患</p> <p>6) 腎疾患</p> <p>3. 療養の場の広がり：地域・施設・在宅</p> <p>1) 療養の場の地域への移行</p> <p>2) 療養の場と緩和ケア</p> <p>3) 緩和ケアの地域連携の実際</p> <p>4) 療養の場の選択としての意思決定支援</p>	<p>1. 小児の患者、AYA世代の患者、高齢の患者の緩和ケアの特徴とその特徴に合わせた緩和ケアを述べるができる</p> <p>2. 悪性腫瘍、心不全、COPDの緩和ケアの特徴とその特徴に合わせた緩和ケアを述べるができる</p> <p>3. 緩和ケアが行われる場として、どのような病院や施設があるか述べるができる</p>	

13	2	<p>臨死期のケア</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨死期の概念とそのケアの目標を理解する 2. 臨死期における全人的苦痛の緩和の実践を理解する 3. 死亡前後のケアおよび急変時のケアを理解する <p>家族のケア</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の定義と家族ケアのあり方を理解する 2. 患者の経過に応じた家族ケアの実践方法を理解する 3. グリーフと遺族ケアを理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨死期の概念とケアの目標 <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨死期の概念 2) 死に対峙する患者と家族 3) 臨死期のケアの目標 2. 臨死期における全人的苦痛の緩和 <ol style="list-style-type: none"> 1) がん終末期における全身状態の変化の特徴 2) 慢性疾患の終末期における全身状態の変化 3) 臨死期における症状の特徴とケア 4) 臨死期における倫理的課題 3. 死亡前後のケア 4. 急変時のケア <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の定義と家族ケアのあり方 2. 緩和ケアにおける家族看護過程 3. 家族ケアの方法 4. グリーフと遺族ケア 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族エンパワーメントモデルとはどのような考え方か述べることができる 2. 診断時・治療期、慢性期、終末期・臨死期において必要とされる家族ケアを述べることができる 	講義
14	2	<p>ケアするものとしての死生観</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 死生観をまとめることができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義を通して、自己の死生観について考えを深める 	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート提出 	演習
15	2	単位認定終講試験			

専 門 分 野

老 年 看 護 学

老年看護学概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	病院勤務経験有		
科目目標	1. 人間のライフサイクルにおける老年期の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解する 2. 高齢者の健康と保健・医療・福祉の制度および課題を学び、超高齢社会における看護の役割を理解する				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	高齢者と積極的に関わりをもち その人の背景や価値観をより深く理解していく 超高齢社会の動向や社会情勢について関心をもつこと 老年看護の場は病院から地域・在宅へと拡大してきている 日ごろより地域や様々な場で生活する高齢者に関心をもつこと	テキスト	老年看護学（医学書院） 老年看護 病態・疾患論（医学書院） 国民の衛生の動向 勤労者医療概論		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	老いるということ、老いを生きるということ 1. 高齢者のイメージを意識化し、老年期の特徴を理解する	1. 「老いる」ということ 1) 未知なる老いのイメージ 2) 加齢と老化の定義と関係 3) 身体的、心理的、社会的側面の変化 2. 老いを生きるということ 1) 高齢者の定義 2) 発達と成熟	1. 加齢変化と老化の定義が説明できる 2. 身体面・心理面・社会面の加齢変化が説明できる 3. ライフサイクルの老年期の発達課題が説明できる	講義
3 4	4	老年看護のなりたち 1. 老年看護の目指すものを理解する	1. 老年看護とは 1) 老年看護のなりたち、定義 2. 老年看護の役割 1) 注目すべき4つの側面 2) 老年看護の特徴 3. 老年看護における理論・概念の活用 4. 老年看護に携わる者の責務	1. 老年看護の定義や関連概念とのつながりが説明できる 2. 老年看護実践の特徴について説明できる 3. 4要素の視点と看護介入について知ることができる	講義
5 6	4	超高齢社会と社会保障 1. 社会の現状と高齢者を取り巻く保健医療福祉の概要を理解する 2. 地域で様々な健康レベルにある高齢者の生活を支えている、地域包括ケアシステムや共生社会の取り組みについて理解する	1. 超高齢社会の統計的輪郭 1) わが国の高齢化、高齢者の世帯、健康状態、死亡、暮らし 2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 1) 高齢社会にかかわる保険医療福祉システムの構築 2) 高齢者を支える多機関・多職種連携と看護活動の多様化 3. 高齢者の権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 2) 高齢者虐待 3) 身体拘束 4) 権利擁護のための制度	1. 人口動態の視点から高齢化の現状と推移について説明できる 2. 高齢者のいる世帯の状況について説明できる 3. 高齢者の保健医療福祉に関する制度の変遷について説明できる 4. 介護保険制度の目的と仕組みを説明できる 5. 高齢者を支える地域包括ケアシステムの仕組みを理解することができる	講義
7	2	高齢者のリスクマネジメント 1. 安全に配慮した環境作りの必要性、看護の役割について理解する	1. 高齢者と医療安全 1) 高齢者と医療事故 2) 高齢者特有のリスク要因 3) 高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際 2. 高齢者と救命救急 3. 高齢者と災害	1. 高齢者特有のリスク要因が説明できる 2. 高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際を知ることができる 3. 災害サイクルの看護援助が説明できる	講義

8	2	生活・療養の場における看護 1. 高齢者の療養する場所の特性と看護について理解する	1. 治療を必要とする高齢者の看護 1) 入院治療を受ける高齢者の看護 2) リハビリテーションを受ける高齢者の看護 2. 生活・療養の場における看護 1) 保健医療福祉施設及び居住施設における看護 2) 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 3) 多職種連携実践による活動	1. 各施設の特徴と、求められる看護の役割を説明できる	講義
9 10 11 12	8	高齢者のヘルスアセスメント 1. 加齢変化による日常生活への影響を理解する 2. 高齢者の生活体験と価値観や健康への影響を理解することができる	1. ヘルスアセスメントの基本 1) ヘルスアセスメントの枠組み 2) 高齢者の総合評価 2. 身体に加齢変化とアセスメント 1) 皮膚とその付属器 2) 視聴覚とその他の感覚器 3) 循環系 4) 呼吸器系 5) 消化器系 6) ホルモンの分泌 7) 泌尿生殖器 8) 運動器系	1. 高齢者体験より身体的・心理的・社会的変化を理解できる 2. 加齢変化の内容を説明できる 3. 加齢変化の日常生活への影響を説明できる 4. 加齢変化について学習発表後、高齢者体験後を通して、加齢変化について理解を深める	グループ学習 演習 講義
13 14	4	高齢者のQOLと看護 1. 高齢者のQOLの要素、生きがいについて理解する	1. 老年期の勤労者看護 2. 高齢者のQOLとは 1) 高齢者とヘルスプロモーション 2) コミュニケーション 3) セクシャリティ 4) 社会参加	1. 高齢社会の勤労者の現状を理解することができる 2. 老年期の勤労の意味を知り、看護の必要性を知る 3. 高齢者の価値観、健康状態や生活の多様性を理解したうえで、QOLの向上への看護を考える必要性がわかる	講義
15	2	単位認定終講試験			

老年看護学援助論 I

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30 時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1. 高齢者の日常生活とその援助の方法を理解する 2. 高齢者の加齢変化や健康障害の特徴を理解し、状態や状況に応じた看護の方法を学ぶ 3. 健康レベルや療養の場の違いにおける高齢者・家族への個別性に応じた援助方法を学ぶ				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	症候のアセスメントと看護について事前調べ学習 基礎看護技術の復習 脳梗塞について病因・症状・診断・検査・治療についての復習 個人ワーク、グループワーク、演習やの主体的な取り組み	テキスト	老年看護学（医学書院） 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（医学書院）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2 3 4 5	10	健康逸脱からの回復を促す看護 1. アセスメントの視点が理解できる	1. 症候のアセスメントと看護 1) 発熱 2) 痛み 3) 掻痒 4) 脱水 5) 嘔吐 6) 浮腫 7) 倦怠感 8) 褥瘡・スキン・テア 9) せん妄 10) うつ 2. 高齢者の生活機能を整える看護 1) 基本動作と環境のアセスメント 2) 転倒のアセスメント 3) 廃用症候群のアセスメントと看護	1. 加齢に伴う変化と症状の関連と看護について説明できる 2. 高齢者の発達段階や加齢現象におけるアセスメントの視点、加齢に伴う変化による生活動作の問題点が説明できる 3. 自立援助・事故予防のアセスメントのポイントが説明できる	講義
6 7	6	高齢者の生活機能を整える援助 食事・食生活の援助 1. 安全かつ快適に食事をするためのアセスメントと援助ができる	1. 高齢者における食生活の意義 2. 高齢者に特徴的な変調 3. 食生活のアセスメント 1) 食生活に関する加齢変化 2) 摂食・嚥下障害のある人の援助の方法 4. 食生活の支援 1) 食事介助、義歯ケア・・・●	1. 老化に伴う機能の低下に応じた生活の自立支援の方法が理解できる 2. 高齢者の食事摂取状況におけるアセスメントの視点と必要な情報が説明できる 3. 高齢者に応じた口腔内保清の援助の方法が説明できる 4. 摂食・嚥下障害への援助の方法が説明できる	講義 演習
8 9	6	高齢者の生活機能を整える援助 排泄の援助 1. 安全かつ自尊心を尊重した援助ができる	1. 高齢者の尊厳にかかわる排泄ケア 1) 排泄ケアの基本姿勢 2) 排泄障害のアセスメントと看護 3) 排尿障害のアセスメントと看護 4) 排便障害のアセスメントと看護 2. 排泄の援助・・・● 1) 自立に向けた援助の方法 2) 尿失禁、便秘に対する援助	1. 高齢者の排泄に関するアセスメントの視点と観察の方法が説明できる 2. 高齢者に多い失禁の分類と適切な援助の方法が説明できる	講義 演習
10 11	6	高齢者の生活機能を整える援助 清潔の援助 1. 安全でこちよく清潔のニーズを充足できるような援助ができる	1. 高齢者の清潔ケアとは 1) 清潔の意義 2) 高齢者に生じやすい清潔に関する問題 3) 清潔のアセスメントと看護 2. 清潔の援助・・・● 1) 皮膚のアセスメント 2) 入浴・清拭・陰部洗浄・フットケア 3) 衣服の選択と整容・おしゃれとその意義	1. 高齢者の清潔に関するアセスメントの視点と方法が説明できる 2. 皮膚のアセスメントと適切な援助の方法が説明できる	講義 演習

12 13	6	<p>高齢者の生活機能を整える援助 生活リズムの援助</p> <p>1. 生活リズムを整える援助方法を理解する</p>	<p>1. 高齢者と生活リズム</p> <p>1) 高齢者に特徴的な変調</p> <p>2) 生活リズムのアセスメント整える看護</p> <p>3) 高齢者の加齢に伴う生活の変化や喪失と機能低下の関連</p> <p>4) 生活意欲と楽しみの必要性</p> <p>2. 高齢者へのレクリエーション</p>	<p>1. 加齢に伴う変化による生活リズムの変化の問題点がわかる</p> <p>2. 生活におけるリズム調整や楽しみのある生活の必要性が言える</p> <p>3. ICFモデルを用いて高齢者の生活機能を考えることができる</p> <p>4. 高齢者へのレクリエーションの必要性がわかる</p>	講義
14		<p>高齢者の生活機能を整える援助 コミュニケーション・セクシュアリティ・社会参加の援助</p> <p>1. 高齢者の特徴を踏まえて援助の必要性を理解する</p>	<p>1. 高齢者とのコミュニケーション</p> <p>2. 高齢者におけるセクシュアリティ</p> <p>3. 高齢化の現実と目指す社会の方向性</p>	<p>1. 高齢者とのコミュニケーションとかわりかたの原則がわかる</p> <p>2. セクシュアリティのアセスメントと看護の必要性が説明できる</p> <p>3. 社会参加の意義、社会参加活動促進に向けた展望を考えることができる</p>	講義
15	2	単位認定終講試験			

表記の注意：●演習

老年看護学援助論Ⅱ

開講時期	Ⅳ	単位数	2	時間数	45時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験	老年看護領域実務病棟勤務経験有 大阪労災病院勤務 認定看護師		
科目目標	1. 高齢者に多発する疾患を抱える高齢者の看護の方法を理解する 2. 老年期における死の意味を理解し、その人らしく「生ききる」ことを支える援助方法を理解する				
評価方法	筆記試験 140点 課題提出 30点	認定基準	筆記試験84点以上、事例展開18点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	看護学概論で作成した「加齢に伴う身体的、心理的、社会的機能の変化と健康への影響」ノートの復習 各講義後の自己復習 個人ワーク、グループワーク、演習への主体的な取り組みを行う	テキスト	老年看護学（医学書院） 老年看護 病態・疾患論（医学書院）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2 3	6	治療を行う必要とする高齢者の看護 1. 高齢者の看護の方法について理解ができる	1. 検査をうける高齢者への看護 1) 高齢者が受けることの多い検査 2) 検査を受ける高齢者への援助 2. 薬物療法を受ける高齢者の看護 1) 加齢に伴う薬物動態の変化 2) 高齢者に特徴的な薬物有害事象 3) 老年症候群と薬物有害事象 4) 薬物療法における看護 3. 手術を受ける高齢者の看護 1) 手術を受ける高齢者の特徴 2) 術前看護マネジメント 3) 術後看護マネジメント 4) 高齢者に特徴的な手術	1. 高齢者が受けることの多い検査と手術時の看護が説明できる 2. 高齢者の栄養状態のアセスメントについて説明できる 3. 加齢に伴う薬物動態の変化について説明できる 4. 高齢者の薬物治療時の看護が説明できる	講義
4 5 6	6	運動機能障害で治療を受ける高齢者の看護 1. 看護の実際について理解できる	1. 骨粗鬆症、骨折、変形性関節症の理解 2. 人工股関節置換術の術式と手術経過、予後の理解 3. 術前の看護 1) 高齢者の特徴、術前検査に伴う看護、術前アセスメント、術前オリエンテーション 4. 術後の看護 1) 術後の観察、合併症予防への援助 (1) 安楽確保の技術・・・● (疼痛緩和・巻法) (2) 体動制限の苦痛緩和・・・● (3) 創傷管理 2) 回復を促進する日常生活の援助方法 (1) 関節可動域訓練・・・● (2) 活動と休息の援助 (車椅子移動)・・・● (3) 安全管理の技術・・・● (転落・転倒・外傷予防) 3) 継続看護 (1) 多職種との連携・退院支援	1. 加齢に伴う身体的変化や生活歴と病態との関連が説明できる 2. 手術侵襲や回復過程において加齢現象が及ぼす影響が説明できる 3. 手術後のライフスタイルへの影響を学ぶことができる 4. 術後の合併症への加齢変化の影響が説明できる 5. 術後合併症予防、二次障害予防の日常生活援助が説明できる 6. 退院指導の内容が説明できる 7. 継続看護の必要性を説明できる 8. 社会資源の活用を知ることができる	講義 演習

7 8	4	認知機能障害で治療を受ける高齢者の看護 1. 薬物療法について理解できる 2. 看護の実際について理解できる	1. 認知症とは 2. 認知症の症状 3. 認知症の病態・診断・治療・予防 4. 認知機能及び生活機能評価 5. 認知症の看護 1) 認知症看護の原則 2) 認知症高齢者とのコミュニケーション・・・● 3) 認知症高齢者の環境調整・・・● 4) 急性期医療における認知症高齢者の看護 5) 認知症高齢者と家族へのサポート	1. 認知症、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症の病態、診断のための検査、認知症のスケール・治療・予防について説明できる 2. 認知症の人の行動の意味を考え、対応方法が説明できる 3. 認知症をもつ高齢者と家族の生活がイメージできる 4. 日常生活の援助とその工夫、家族への支援の方法が説明できる 5. サポートシステムとその連携から看護の役割を考えることができる	講義 演習
9 10	4	脳機能障害で治療を受ける高齢者の看護 1. 看護の実際について理解できる	1. 脳機能障害の理解（病態生理、治療） 1) 脳卒中（脳梗塞・脳出血・ラクナ梗塞と脳血管性認知症） （1）状態観察とアセスメント・・・● （2）意識状態の観察・・・● 2) パーキンソン病・パーキンソン症候群 （1）状態観察とアセスメント・・・● 2. 症状に伴う看護の方法 1) 運動障害、知覚障害、神経障害に対する看護介入 3. 合併症予防、二次障害の予防 1) 病床環境の調整・・・● 2) 転倒・転落・外傷・誤嚥など事故予防・・・● 3) 廃用症候群予防・・・● （廃用症候群予防の自動・他動運動） 4. 継続看護 1) 他職種との連携・退院支援	1. 脳卒中の病態生理が理解できる 2. 急性期治療に伴う看護の方法が理解できる 3. 安静、薬物療法と看護の役割が説明できる 4. 症状に伴う看護が説明できる 5. セルフケアの援助方法について説明できる 6. 退院指導の内容が理解できる 7. 継続看護の必要性を学ぶことができる 8. 活用できる社会資源を知る事ができる	講義 演習
11	2	呼吸機能障害で治療を受ける高齢者の看護 1. 看護の実際について理解できる	1. 呼吸障害をきたす疾患 1) 肺炎 2) COPD 2. 呼吸機能障害の分類と症状 3. COPDを患う高齢者の看護 1) 病態理解、状態観察とアセスメント 2) 症状・治療に伴う看護 3) 二次感染の予防や合併症予防のための看護（廃用症候群予防：呼吸機能） 4) 家族への援助	1. 呼吸機能検査のデータの意味が説明できる。（拘束性障害と閉塞性障害、血液ガス分析、酸素管理曲線など） 2. 拘束性障害と閉塞性障害を来す疾患が説明できる 3. 高齢者の罹患時の症状や特徴が説明できる 4. アセスメントの視点が説明できる 5. 生活指導の内容と方法が説明できる	講義
12 13	4	身体疾患のある高齢者の看護 1. 看護の実際について理解できる	1. がん、糖尿病、心不全、インフルエンザ 1) 病態理解、状態観察とアセスメント 2) 症状・治療に伴う看護 3) 二次感染の予防や合併症予防のための看護 4) 家族への援助	1. 疾患、治療について理解できる 2. 加齢に伴う身体的変化や生活歴と病態との関連が説明できる 3. アセスメントの視点が説明できる 4. 症状に伴う看護が説明できる 5. セルフケアの援助方法について説明できる	講義
14	2	エンドオブライフケア 1. 看護の実際について理解できる	1. エンドオブライフケアの概念 2. 「生ききる」ことを支えるケア 1) 死生観 2) 死の準備状況 3. 意思決定への支援 1) 高齢者の尊厳を守るための支援 2) アドバンスケアプランニング 4. 末期段階に求められる援助 1) 高齢者の末期段階における身体変化のアセスメント 2) 末期段階の苦痛を緩和する 3) 家族への支援	1. 高齢者におけるエンドオブ・ライフケア・死生観について理解できる 2. 高齢者の尊厳を守るための支援について理解できる 3. 末期段階における支援の方法が理解できる	講義
15 16 17 18 19 20 21	16	【看護過程の展開】 1. 脳梗塞後の回復期にある患者の看護過程の展開が理解できる	1. 設定事例の高齢者の特徴を把握し日常生活の援助技術の方法を適応する 1) 事例の把握、状態観察とアセスメント 病態の理解 2) 看護の目標の設定、全体像の把握 3) 日常生活援助の必要性を検討 必要な援助項目の抽出 4) 日常生活援助の目標の設定	1. 事例を通して高齢者の特徴を、加齢変化を含める身体的・社会的・精神的視点から理解することができる 2. 高齢者の生きてきた時代背景や生活環境、習慣が健康に及ぼす影響について理解することができる 3. ICFモデルや生活行動モデルをもと	講義 グループ ワーク 演習

22			<p>5) 日常生活援助計画 (食事・排泄・清潔・活動と休息など) 一日の生活リズムに合わせた自と 安全への配慮した計画 (誤嚥・転倒・身体損傷・感染など)</p> <p>6) 援助の実際…● (食事・排泄・清潔・活動と休息など) 一日の生活リズムに合わせた自と 安全への配慮した計画 (誤嚥・転倒・身体損傷・感染など)</p>	<p>に、安全・安楽・自立・個性の視 点をもって目標指向型思考での日常生活 援助計画を立案することができる</p> <p>4. 計画に沿った援助を実施することが できる</p>	
23	1	単位認定終講試験			

專 門 分 野

小 児 看 護 学

小児看護学概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	小児科病棟勤務経験有		
科目目標	1. 小児看護の特徴と理念、看護の役割を理解する 2. 子どもの権利条約を学び、子どもの権利や倫理について考える事が出来る 3. 小児の成長発達の特徴を学び、身体的・精神的・社会的側面から理解する 4. 子どもの健康に影響を及ぼす社会や家族など、子どもを取り巻く環境を理解する 5. 子どもの健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と反応を発達段階に応じて理解する 6. 小児保健統計をふまえ、小児と家族を取り巻く法律や保健対策を理解する				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	グループワーク・発表があるときには資料作成と発表会準備が必要	テキスト	小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 国民衛生の動向		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	小児看護の特徴と理念 1. 小児看護の特徴と理念について学ぶ	1. 小児看護のめざすところ 2. 小児看護の変遷	1. 子どもへのイメージを明確にし、子どもの特徴について自己の意見を述べる事が出来る	講義
2	2	子どもの権利と倫理 1. 子どもの権利条約について学び、小児看護における子どもの権利について考える	1. 子どもの権利条約 2. 小児看護における子どもの権利	1. 子どもの権利条約と小児看護における子どもの権利・倫理について自己の考えを述べる事が出来る	講義
3	2	子どもと家族を取り巻く社会① 1. 小児に関する諸統計と母子保健・児童福祉について学ぶ	1. 小児看護の変遷 2. 母子保健 3. 児童福祉	1. 歴史的経過の中で小児看護の変遷、母子保健・児童福祉の変遷を述べる事が出来る	講義
4 5 6 7	8	子どもの成長・発達 1. 各発達段階の特徴について理解する 2. 各期の子どもの成長・発達・健康・家族・看護について学ぶ	1. 成長・発達の概要 2. 成長・発達の評価 3. 子どもの栄養 4. 各発達段階における形態的特徴、機能的発達、養育および看護（専門家によるグループ間発表） 1) 新生児 2) 乳児 3) 幼児 4) 学童 5) 思春期	1. 子どもの成長・発達について、自己の専門分野に対して責任をもって調べ学習をする 2. グループワークに積極的に参加し、主体的に学び、他者の学びを共有しながら理解を深める	講義 グループワーク
8	2	家族の特徴とアセスメント 1. 家族の特徴とアセスメントについて学ぶ	1. 子どもにとっての家族 2. 家族アセスメント 3. 家族の役割と機能	1. 家族アセスメントの側面をまとめる	講義
9	2	子どもと家族を取り巻く社会② 1. 学校保健・予防接種・医療費の支援について学ぶ	1. 小児と家族の諸統計 2. 学校保健 3. 予防接種 4. 医療費の支援	1. 国民衛生の動向を用いて小児に関連した統計をまとめる 2. 小児に関係する保健施策、予防接種、医療費の支援についてまとめる	講義

10	2	<p>病気・障害を持つ子どもと家族の看護</p> <p>1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護について学ぶ</p>	<p>1. 病気・障害が子どもと家族に与える影響</p> <p>1) 子どもの病気・障害に対する子どもと家族の反応</p> <p>2. 子どもの健康問題と看護</p> <p>1) 健康問題をもつ子どもと家族の看護</p> <p>2) 子どもの治療・健康管理にかかわる看護</p> <p>インフォームドアセント</p> <p>プレバレーション・ディストラクション</p>	<p>1. 子ども・家族の病気に対する反応について説明できる</p> <p>2. 病気・障害を持つ子どもの家族への看護について述べるができる</p>	講義
11	2	<p>子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護</p> <p>1. 様々な環境に特徴づけられる看護について分かる</p> <p>2. 療養環境における遊びの目的と関わりについて学ぶ</p>	<p>1. 環境に特徴づけられる看護</p> <p>1) 入院中の子どもと家族の看護</p> <p>2) 外来における子どもと家族の看護</p> <p>3) 在宅療養中の子どもと家族の看護</p> <p>2. 療養中の子ども遊びと成長発達</p> <p>1) 子どもにとって遊びとは</p> <p>2) 療養環境における遊びの目的</p>	<p>1. 様々な環境による看護の特徴を述べるができる</p> <p>2. 設定された子どもの成長発達や状況に応じて遊びの計画を立て学生間で実施する</p>	講義
12	2	<p>障害のある子どもと家族の看護</p>	<p>1. 障害のとらえ方</p> <p>2. 障害のある子どもと家族の特徴</p> <p>3. 障害のある子どもと家族の社会的支援</p>	<p>1. 障害のある子どもへのチームアプローチについてまとめておく</p> <p>2. 家族の障がいの受容過程について説明できる</p>	講義
13	2	<p>子どもの虐待と看護</p> <p>1. 子どもの虐待と支援について学ぶ</p>	<p>1. 子どもの虐待の現状</p> <p>2. 虐待のタイプにおける特徴</p> <p>3. 求められるケア</p>	<p>1. 虐待の現状を知ることができる</p> <p>2. 虐待の種類を述べるができる</p>	講義
14	2	<p>災害時の子どもと家族の看護</p>	<p>1. 災害時の子どもと家族の特徴</p> <p>2. 災害時の子どもと家族の看護</p>	<p>1. 災害時における子どもと家族の看護を述べるができる</p>	講義
15	2	単位認定終講試験			

小児看護学援助論 I

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	小児科病棟勤務経験有		
科目目標	1. 小児の健康の保持増進にむけた身体アセスメントを理解する 2. 小児の疾病の経過を理解し、小児とその家族への看護の方法を理解する 3. 子どもに出現しやすい症状を理解し、その看護の方法を理解する 4. 検査や処置、手術を受ける子どもの看護の方法を理解する 5. 小児看護におけるコミュニケーション技術や遊び、プレパレーション・ディストラクションを取り入れた看護の方法を学ぶ 6. 小児看護技術を習得する				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	小児の成長発達復習 演習の手順を事前学習して臨む	テキスト	小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2 3	6	子どもにおける疾病の経過と看護 1. 子どもの疾患と経過に応じた看護の方法について理解する	1. 慢性期にある子どもと家族の看護 2. 急性期にある子どもと家族の看護 3. 周手術期の子どもと家族の看護 4. 終末期の子どもと家族の看護	1. 知識・技術と国家試験対策問題を関連させ確認する	講義
4 5 6	6	子どものアセスメント 1. 子どもの身体アセスメントの方法を習得する	1. アセスメントに必要な技術 1) コミュニケーション 2) バイタルサイン 3) 身体測定 2. 身体的アセスメント 1) 一般状態 2) 成長・発達 3) 各器官のアセスメント	1. 知識・技術と国家試験対策問題を関連させ確認する	講義
7 8 9 10	8	症状を示す子どもの看護 1. 子どもの症状に対応した看護の方法を理解する	1. 一般状態 2. 痛み 3. 呼吸・循環系の症状 4. 発熱 5. 消化器症状 6. 水分・電解質異常 7. 出血傾向 8. 神経・筋症状 9. 発疹／黄疸	1. 子どもの各症状の原因、観察のポイント、アセスメントの視点、症状に対する看護、二次障害、合併症予防の看護についてまとめる 2. 症状別の一般的な看護計画を立案する	講義
11 12 13	6	検査・処置を受ける子どもの看護 1. 検査・処置を受ける子どもの看護について理解する	1. 検査・処置総論 薬物動態 2. 検査・処置各論 1) 与薬・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・● 2) 輸液管理（輸液ポンプ・シリンジポンプ）・・・● 3) 経管栄養・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・● 4) 呼吸症状の緩和（吸入・吸引）・・・・・・・・● 5) 救命処置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・●	1. 知識・技術と国家試験対策問題に関連させ、確認する 2. 技術演習にて、子どもに対する技術の特徴、方法の実際を実施して知る	講義 演習
14	2	子どもとのコミュニケーション技術 1. 全ての状況における子どもの看護で大切な事を理解する	1. 入院している子どもの権利と倫理 2. 治療過程を支える看護 1) インフォームドアセント 2) プレパレーション 3) ディストラクション 4) メディカルプレイ	1. 設定された小児の状況や発達段階に対するプレパレーションを計画する	講義
15	2	単位認定終講試験			

表記の注意：●演習

小児看護学援助論Ⅱ

開講時期	Ⅳ	単位数	2	時間数	45時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験	小児病棟勤務経験有 大阪労災病院勤務 看護師		
科目目標	健康障害をもつ子どもの疾患や障害の理解および看護の方法を理解する				
評価方法	筆記試験 150点 課題提出 30点	認定基準	筆記試験80点以上、事例展開18点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	SIMは各グループで練習して臨む 看護過程について復習	テキスト	小児臨床看護各論（医学書院）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	新生児の疾患と看護 1. 新生児の疾患を理解する 2. 疾患をもつ新生児とその家族の看護を理解する	1. 新生児の疾患の理解 1) 新生児仮死 2) 適応障害（TTN/MAS） 3) 低出生体重児の疾患 4) 高ビリルビン血症 2. 疾患を持った小児と家族の看護 1) 各疾患のある新生児の看護 2) ディベロップメンタルケア 3) グリーフケア	1. 新生児の疾患の特徴、治療、予後について理解できる 2. 疾患をもつ新生児と家族の看護介入の方法を述べることができる	講義
3 4 5 6	8	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護 1. 先天性疾患、小児神経疾患を理解する 2. 先天性疾患、小児神経疾患をもつ子どもとその家族の看護を理解する	1. 先天性疾患の理解 1) 先天性心疾患 2) 染色体異常 2. 小児神経疾患 1) 脳性まひ 3. 子どもの障害の理解と子どもとその家族の障害の受容 1) 障害のある子どもの家族への理解 2) 障害の受容過程 3) サポートシステム・チームアプローチ 4. 脳性まひの子どもの看護 1) 機能の発達と回復促進のための援助 2) 親や家族の理解 3) 脳性まひの子どもの養育	1. 先天性疾患の病態、治療、予後について理解できる 2. 障害のある子どもとその家族の受容過程が理解できる 3. 脳性まひの子どもの生活がイメージでき、日常生活の援助とその工夫や親への育児支援の方法を述べる事が出来る 4. サポートシステムとの連携から看護の役割を考えることができる	講義
7	2	精神疾患と看護 1. 子どもの発達障害について理解する 2. 発達障害をもつ子どもの療育とその家族の支援の方法を理解する	1. 子どもの精神症状の特徴の理解 1) 問題の把握・診断・治療 2. 発達障害の特徴の理解 1) 診断基準 2) 療育方法 3. 精神障害のある子どもと家族の接し方と療育	1. 子どもの精神症状の特徴理解できる 2. 問題の把握・診断・治療・看護・療育方法について理解できる	講義
8 9 10 11	8	急性的疾患の子どもの看護 1. 感染症の子どもの看護の方法を理解する	1. 感染症の子どもの看護 1) 急性期～回復期のアセスメント 2) スタンダードプリコーション 3) 症状治療に伴う看護 4) 二次感染予防と合併症予防の看護 5) 家族への援助 6) 肺炎・腸炎に罹患した小児の看護	1. 小児感染症の特徴、診断基順を述べる事が出来る 2. 治療の原則（安静・薬物療法・スタンダードプリコーション）が分かる 3. 観察のポイント、生活指導の内容と方法を述べる事が出来る	講義
12 13 14 15	8	慢性的疾患の子どもの看護 1. 慢性状態の子どものとその家族の看護の方法を理解する	1. 慢性状態の子どもの看護 1) 病気の時間的経緯と状態のとらえ方 2) 病気による生活の変化と日常生活への援助 3) 長期的治療を必要とする子どもと家族の看護 3. ネフローゼ症候群、I型糖尿病、喘息の子どもの看護 1) 症状・治療に伴う看護 2) 安静・薬物療法・食事療法 3) セルフケアに向けての生活指導 4) 子どもの発達段階と家族背景に応じた看護の方法	1. 小児慢性疾患の病態生理が理解できる 2. 治療に伴う看護の方法が理解できる 3. 安静、薬物療法、食事療法のポイントと看護の役割を述べる事が出来る 4. 症状に伴う看護を述べる事が出来る	講義

			<p>5) ソーシャルサポートシステム (1) 小児慢性疾患特定事業 (2) 学校保健管理</p>	<p>5. 子ども自身のセルフケアとセルフコントロールの援助方法について理解した内容を述べる事が出来る 6. ソーシャルサポートシステムの内容を理解する</p>	
16 17	4	<p>予後不良の子どもの看護 1. 子どもが予後不良をどのように認識するのかを知り、対象とその家族の看護の方法を理解する</p>	<p>1. 予後不良の子どもの看護 1) 子どもの生命・死のとらえ方 2) 予後不良の子どもと家族への援助 3) 死に直面した家族への看護 4) 白血病の治療をうける子どもの看護 (1) 化学療法 (2) 放射線療法</p>	<p>1. 予後不良の子どもと家族の心理状態が理解できる 2. 子どもの死の概念のとらえ方が理解できる 3. 死と離別の不安への援助の方法を述べる事が出来る 4. 化学療法における子どもの看護を述べる事が出来る 5. 放射線療法における子どもの看護を述べる事が出来る 6. 小児悪性疾患のサポートシステムについてのあり方を考える事が出来る</p>	講義
18 19 20 21 22	10	<p>【看護過程の展開】 1. 紙上患児を通して看護計画の立案ができる</p>	<p>1. 事例展開 1) 事例（川崎病）の理解 2) 情報の整理と解釈 3) 看護問題の抽出 4) 看護計画の立案 5) グループでの共有 2. SIM演習（安全・事故防止の看護）</p>	<p>1. 川崎病の病態と病期を理解できる 2. 病態や状況が子どもや家族の生活に与える影響を述べることができる 3. 発達段階・病期に応じた看護計画を立案することができる 4. SIM演習にて、計画した看護を実践し評価することができる 5. SIMの内容をSOAPで記入することができる</p>	<p>講義 グループワーク 演習</p>
23	1	単位認定終講試験			

専 門 分 野

母 性 看 護 学

母性看護学概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		産科病棟勤務経験有 助産師	
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 人間の性・生殖の意義を考え、母性の概念・特性を理解する 母子の健康を取り巻く現状を知り、母性看護の目的を理解する ライフサイクルの各期の母性としての特性を身体的・心理的・社会的側面から理解する 現代社会における母性のニーズと看護および倫理について考える 女性の一生を通じた健康の維持・増進にむけての看護の目的について理解する 女性の自己決定と結び付けたリプロダクティブヘルス・ライツの意味を理解する 				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	グループワーク・発表があるとき には資料作成と発表準備が必要	テキスト	母性看護学概論（医学書院）国民衛生の動向 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	命について 1. 生命の神秘について考え生命の大切さを理解する	1. 命について 1) 命の大切さ 2) 命の神秘	1. 生命の神秘について考え生命の大切さについて述べることができる	講義
2 3	4	母性の基盤となる概念 1. 母子関係を理解する上で必要な概念と理論について学ぶ 2. 看護職の役割について考えることができる	1. 母性とは 1) 母性の概念 2) 母性の発達・成熟・継承 2. 母子関係と家族発達 1) 愛着と母子相互作用と母子関係形成 2) 家族機能 3) 家族の発達課題 4. セクシュアリティ 4. リプロダクティブヘルス/ライツ 5. ヘルスプロモーション 6. 母性看護のあり方	1. 母性について自己の言葉で表現できる 2. 自分にとっての家族について考えることができる 3. 母性・父性の役割について述べることができる 4. セクシュアリティ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ概念を述べるができる 5. 看護職の役割について言葉で表現できる	講義
4 5	4	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1. 母性看護をめぐる歴史と母子保健の現状を学ぶ 2. 母性看護の対象を取り巻く環境と現代社会を理解する	1. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母性看護の変遷 2) 母子保健統計からみた動向 3) 母性看護に関する組織と法律 4) 母子保健施設からみた現状 5) 母性看護の場と職種 2. 母性看護の対象を取り巻く環境 1) 家族 2) 地域社会 3) 生物学的環境 4) 社会文化的環境	1. 母性看護の変遷と母子保健の動向・現状について述べるができる 2. 母子を取り巻く環境・家族・地域・労働問題について述べることができる 3. 母性看護に関する組織と法律について述べるができる	講義
6	2	母性看護の対象理解 1. 母性看護の対象とニーズについて理解する	1. 女性・家族のライフサイクル 1) 現代女性のライフサイクル 2) 家族の発達段階と家族看護 2. 女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化 1) 生殖器の形態・機能 2) 妊娠と胎児の性分化	1. 母性看護の対象とニーズについて述べるができる	講義
7 8 9	6	女性のライフステージの各期における看護 1. 女性のライフサイクル各期における看護について学ぶ	1. ライフサイクル各期における女性の健康と看護の必要性 1) 胎児期・乳幼児期・学童期 2) 思春期の健康と看護 3) 成熟期の健康と看護 4) 更年期・老年期の健康と看護	1. ライフサイクル各期の女性の健康と看護の必要性について述べるができる	講義
10 11	4	リプロダクティブヘルスケア 1. リプロダクティブヘルスケアについて理解する	1. 家族計画 2. 性感染症とその予防 3. 人工妊娠中絶と看護 4. 喫煙女性の健康と看護 5. 性暴力を受けた女性に対する看護 6. HIVに感染した女性に対する看護	1. リプロダクティブヘルスケアについて述べるができる	講義

			7. 児童虐待 8. 国際化社会と看護		
1 2 1 3	4	母性看護に必要な技術 1. 母性看護に使われる看護技術について学ぶ	1. 母性看護における看護過程 2. 情報収集・アセスメント技術 3. 母性看護に使われる看護技術 1) 女性の意思決定を支える技術 2) ヘルスプロモーションのための技術 3) 親になる過程及び家族適応を促す看護技術 4) ストレス・不快症状、苦痛を緩和する看護技術 5) 次世代の成長発達を促す看護技術 6) リプロダクティブヘルスの健康障害への適応 7) 周産期の死に対する看護技術	1. 母性看護における看護の展開の特徴を述べることができる 2. 母性看護における看護技術の特徴を述べることができる	講義
1 4	2	母性看護と倫理 1. 母性看護における倫理について考え、課題を見いだす 2. 母性をめぐる法的課題と医療事故の予防と対応について学ぶ	1. 母性看護における倫理 1) 生命倫理と看護倫理 2) 看護における倫理的意決定 2. 母性看護における安全・事故予防 3. 母子をめぐる現状と課題	1. 母性をめぐる倫理について関心を持ちその問題点について考えることができる 2. 母子を取り巻く現代社会について視野を向け、良い点や問題点および今後の課題について考えることができる	講義
1 5	2	単位認定終講試験			

母性看護学援助論 I

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	産科病棟勤務経験有 助産師		
科目目標	1. 正常な妊娠の成立機序と妊娠各期の経過を理解し、健康管理に必要な看護および技術を理解する 2. 妊娠に関する健康障害や合併症妊娠の母子管理について理解する 3. 正常分娩の経過を理解し、産婦とその家族が主体的に出産に臨み、安全安楽な分娩のために必要な看護および技術を理解する 4. 分娩期に起こりやすい異常について理解し、母子の看護を理解する				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	グループワーク・発表があるとき には資料作成と発表準備が必要	テキスト	母性看護学概論 母性看護学各論（医学書院） 周産期ナースング（スーパルヒロカワ） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	妊娠期の身体的特性 1. 母体の生理的变化を理解する 2. 胎児の発育・生理について理解する	1. 妊娠の生理 1) 妊娠とは 2) 妊娠の成立 2. 胎児の発育とその生理的变化 1) 胎児の発育と生理 2) 胎盤と羊水の生理 3. 母体の生理的变化 1) 生殖器における変化 2) 妊娠による全身的变化 3) マイナートラブル	1. 妊娠の定義を述べるができる 2. 妊娠期間を数えることができる 3. 妊娠に伴う身体的変化について述べるができる 4. 妊娠期のマイナートラブルについて述べるができる 5. 胎芽・胎児の定義について述べるができる 6. 胎児循環について述べるができる	講義
2	2	妊娠の成立に障害のある人の看護 1. 生殖機能の健康障害の診断と治療について理解する 2. 不妊症の治療をうける対象の心理・社会的背景を理解する 3. 不妊症の治療を受ける対象の看護について理解する	1. 疾患の理解 原発性不妊、続発性不妊、不育症 1) 原因と検査・治療 2) 治療方針の組み立て 3) 倫理的課題 2. 不妊治療を受けている女性の心理・社会的特徴 3. 不妊症夫婦の看護 1) 不妊検査治療中の看護の方向性 2) 一般不妊治療を受けている夫婦の看護 3) 生殖補助技術を受けている夫婦の看護 4) 不妊夫婦への社会的支援 5) 意思決定支援	1. 不妊症の定義について述べるができる 2. 不妊症の原因・検査・治療について述べるができる 3. 不妊症患者を理解するためのアセスメントを述べるができる 4. 高度生殖医療を受ける対象の心理的・社会的問題を考えることができる	講義
3	2	妊婦と家族の看護① 1. 妊婦が受ける母子保健サービスの概要を理解する	1. 妊娠とその診断 2. 妊婦健康診査 3. 保健指導 4. 保健相談	1. 妊娠期の健康診査の必要性和時期について述べるができる	講義
4 5 6	6	妊娠期の看護② 1. 各期における妊娠期の援助について理解する	1. 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント 1) 妊娠の経過と診断 2) 胎児の発育と健康状態の診断 3) 妊婦と胎児の身体的健康状態のアセスメント 4) 妊婦の家族の心理・社会面のアセスメント 5) 日常生活に関するアセスメント 6) 妊娠中のマイナートラブル 7) 起こりやすい異常 2. 妊婦と家族の看護 1) 妊婦の保健相談の実際 (1) 妊娠中の食生活 (2) 排泄 (3) 清潔 (4) 妊娠中の衣生活 (5) 活動と休息 (6) 妊婦の勤労 (7) 妊娠中の性生活	1. 妊娠期におけるアセスメントの方法を述べるができる 2. 妊娠各期の身体的・社会的・心理的特徴について述べるができる・妊娠期の胎児へのアタッチメントの意義を述べるができる 3. 勤労者妊婦の法的保護について説明できる 4. 妊娠期の日常生活についてのアセスメント項目を述べるができる 5. 親役割獲得過程における発達課題について述べるができる 6. 妊娠各期の必要な看護について事例をから考えることができる	講義

			<p>(8) 母子保健事業</p> <p>2) 親になるための準備教育</p> <p>(1) 分娩準備教育</p> <p>(2) 育児準備のための保健相談</p> <p>(3) 家族役割調整のための保健相談</p> <p>3. マイナートラブル(不快症状)の援助</p>	きる	
7	2	<p>異常妊娠の病態と看護</p> <p>1. 妊娠中に起こりやすい異常の病態生理・診断・検査・治療・看護を理解する</p>	<p>1. ハイリスク妊娠</p> <p>1) 糖尿病・妊娠糖尿病</p> <p>2) 妊娠貧血</p> <p>2. 妊娠中に起こりやすい異常の病態生理・診断・検査・治療と看護</p> <p>1) 妊娠悪阻</p> <p>2) 妊娠高血圧症候群</p> <p>3) 血液型不適合妊娠</p> <p>4) 多胎妊娠(双胎)</p> <p>5) 胎位異常(骨盤位)</p> <p>6) 流産・早産</p> <p>7) 妊娠中の出血</p> <p>(1) 前置胎盤</p> <p>(2) 常位胎盤早期剥離</p> <p>(3) 子宮外妊娠</p> <p>8) 胎児発育異常(IUGR)</p> <p>3. メンタルヘルスケア</p> <p>1) 妊娠期における女性の適応</p> <p>2) メンタルプロセス</p> <p>3) 環境要因</p> <p>4) 看護の役割と方法</p>	<p>1. 妊婦のハイリスク状態について述べるができる</p> <p>2. 妊娠中に起こりやすい異常の病態生理・診断・検査・治療と看護について述べるができる</p> <p>3. 妊娠中に起こりやすい異常を予防するための保健指導項目について述べるができる</p> <p>4. 妊娠期のメンタルヘルスの重要性について述べるができる</p>	講義
8	2	<p>分娩期の特徴</p> <p>1. 正常分娩の経過を理解する</p>	<p>1. 分娩の三要素</p> <p>1) 分娩とは</p> <p>2) 分娩の3要素</p> <p>3) 胎児と子宮および骨盤との関係</p> <p>4) 分娩の機序</p> <p>2. 分娩の経過</p> <p>1) 分娩の進行と産婦の身体的変化</p> <p>2) 産痛</p> <p>3) 胎児に及ぼす影響</p>	<p>1. 分娩の定義を述べるができる</p> <p>2. 分娩の三要素について述べるができる</p> <p>3. 分娩の機序に影響する因子を述べるができる</p> <p>4. 正常分娩の経過について述べるができる</p>	講義
9	2	<p>産婦の心理・社会的変化</p> <p>1. 分娩による産婦とその家族の心理的变化について理解する</p>	<p>1. 産婦の心理・社会的変化</p> <p>1) 分娩の進行に伴う心理・社会的変化</p>	<p>1. 陣痛が及ぼす影響について述べるができる</p> <p>2. 分娩各期の産婦および家族の心理について述べるができる</p>	講義
10	2	<p>産婦・胎児、家族のアセスメント</p> <p>1. 分娩経過のアセスメントを理解する</p> <p>2. 産婦の心理・社会面のアセスメントを理解する</p>	<p>1. 産婦・胎児、家族のアセスメント</p> <p>1) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント</p> <p>(1) 基礎的情報の収集</p> <p>(2) 分娩経過のアセスメント</p> <p>(3) 分娩進行に伴う反応のアセスメント</p> <p>(4) 基本的ニーズに関するアセスメント</p> <p>2. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント</p> <p>1) 母親役割獲得準備状態についてのアセスメント</p> <p>2) 家族関係についてのアセスメント</p>	<p>1. 日本人産婦の平均分娩所要時間を述べることができる</p> <p>2. フリードマンの頸管開大曲線について述べるができる</p>	講義
11 12	4	<p>産婦と家族の看護</p> <p>1. 産婦とその家族が主体的に出産に臨むことができるための看護を学ぶ</p> <p>2. 母児が安全安楽に分娩するための看護を学ぶ</p>	<p>1. 産婦と家族の看護</p> <p>1) 看護の目標と産婦のニーズ</p> <p>2) 安全分娩への看護</p> <p>3) 安楽な分娩への看護</p> <p>4) 出産体験が肯定的になる看護</p> <p>5) 発達を促す看護</p> <p>2. 分娩期の看護の実際</p> <p>1) 分娩第1期の活動期の看護</p> <p>2) 分娩第1期の活動期終盤の看護</p> <p>3) 分娩第2期の看護</p> <p>4) 分娩第3・4期の看護</p>	<p>1. 分娩期の看護の視点について述べるができる</p> <p>2. 産婦の観察の視点について述べるができる</p> <p>3. 産婦の苦痛の緩和の方法を述べるができる</p> <p>4. 緊急事態への準備の必要性について述べるができる</p> <p>5. 分娩各期の看護の視点を述べるができる</p>	講義
13	2	<p>異常分娩の病態・治療と看護</p> <p>1. 分娩中に起こりやすい異常の病態生理・診断・検査・治療を理解する</p> <p>2. 分娩期における正常からの逸脱の予防と</p>	<p>1. 異常分娩の病態</p> <p>1) 微弱陣痛・遷延分娩</p> <p>2) 児頭骨盤不均衡(CPD)</p> <p>3) 骨盤位</p> <p>4) 前期破水(PROM)・早期破水</p> <p>5) 前置胎盤</p> <p>6) 常位胎盤早期剥離</p> <p>7) 癒着胎盤</p>	<p>1. 分娩中に起こりやすい異常についての病態生理を述べるができる</p> <p>2. 陣痛促進による母児への影響について述べるができる</p> <p>3. 帝王切開の適応について述べるができる</p> <p>4. 前期(PROM)・早期破水時</p>	講義

		逸脱時の看護を学ぶ	8) 胎児機能不全 9) 分娩時の出血 (1) 弛緩出血 (2) 頸管裂傷 10) 陣痛促進・帝王切開の適応 2. 異常のある産婦の看護 1) 前期 (PROM)・早期破水時の看護 2) 前置胎盤の場合の看護 3) 分娩遅延リスクの Assessment と産婦の看護 4) 胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護 5) 分娩時異常出血のある産婦の看護 3. 地域周産期医療システム (OGCS)	の感染予防の重要性と方法について述べるができる 5. 前置胎盤の安静の重要性について述べるができる 6. 微弱陣痛状態にある産婦の看護のポイントについて述べるができる 7. 産科出血時の対処について述べるができる 8. 地域周産期医療システムの役割について述べるができる	
14	2	妊娠期・分娩期の看護技術 1. 妊娠経過の観察に必要な看護技術を習得する 2. 分娩経過を観察するための技術を習得する	1. 外診時の援助 1) レオポルド触診法・・・・・・・・● 2) 胎児心音聴取・・・・・・・・● 3) 子宮底長の測定・・・・・・・・● 4) 腹囲の測定・・・・・・・・● 2. 母乳栄養への準備 1) 乳頭マッサージ・・・・・・・・● 3. 分娩前の準備 4. 産痛緩和への援助・・・・・・・・● 5. 胎児付属物の観察と計測 1) 胎盤計測	1. 妊婦模型にてレオポルド触診法が実施できる 2. 妊婦模型にて胎児の心音を聴取できる 3. 妊婦模型にて子宮底長の測定ができる 4. 妊婦模型にて腹囲の測定ができる 5. 乳房模型にて乳頭の手入れが実施できる 6. 産痛緩和の援助を体験することができる	演習
15	2	単位認定終講試験			

母性看護学援助論Ⅱ

開講時期	Ⅳ	単位数	2	時間数	4 5 時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験		産科病棟勤務経験有 助産師 小児科病棟勤務経験有 大阪労災病院勤務 助産師 認定看護師	
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性特有の健康障害の特徴、疾病・治療について理解する 2. 女性の健康障害が及ぼす影響を踏まえ、女性の健康障害に対する看護について理解する 3. 産褥期における経過を理解し、セルフケアにむけて必要な看護および技術を学ぶ 4. 産褥期における健康障害や合併症をもつ産褥の母子管理について理解し、必要な看護を学ぶ 5. 正常な早期新生児の経過および成長発達を理解し、母子関係を促進させ、必要な看護および技術を学ぶ 6. 産褥期・新生児期の事例展開を通して産褥期・新生児期の看護について学ぶ 				
評価方法	筆記試験 150点 課題提出 30点	認定基準	筆記試験90点以上、事例展開18点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	グループワーク・発表があるときには資料作成と発表準備が必要 事例展開について	テキスト	母性看護学概論 母性看護学各論（医学書院） 周産期ナースング（ヌーベルヒロカワ） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	身体的性・ジェンダーアイデンティティに関する健康障害 1. 身体的性とジェンダーアイデンティティの相違を生じる疾患や障害を学び、その看護を理解できる	1. 身体的性・ジェンダーアイデンティティに関する疾患と障害 1) 性分化疾患の病態生理と症状、病型分類・生殖性について 2) 外陰・膣の発生・発育異常の病態生理・生殖性について 3) 性同一性障害の診断と治療、看護について	1. 性分化疾患の病態と生殖性について述べることができる 2. 性器の発生・発育異常の病態生理・生殖性について述べる ことができる 3. 身体的性とジェンダーアイデンティティの相違をもつ対象への看護について述べる ことができる	講義
2	2	思春期・更年期における健康障害 1. 思春期における月経異常の診断と治療について学び、その看護を理解できる 2. 更年期における更年期障害の診断と治療について学びその看護を理解できる	1. 思春期 1) 月経異常、月経困難症、性感染症の症状・検査・治療と看護 2. 更年期 1) 更年期障害の症状・治療・看護	1. 思春期における月経異常について述べる ことができる 2. 更年期の代表的な身体的症状について述べる ことができる 3. 更年期障害の治療について述べる ことができる	講義
3 4 5	6	内性器の健康障害 1. 内性器の健康障害の診断と治療について理解できる 2. 子宮がんで、広汎子宮全摘出術を受ける人の周手術期・後療法時及び社会復帰への看護の方法を理解する	1. 子宮（子宮がん・子宮筋腫・子宮内膜症・絨毛性疾患）・卵巣（卵巣腫瘍）の疾患 1) 病態生理と症状と病型分類・予後について 2) 診察・検査と治療・処置の理解 2. 子宮がん患者の看護 1) 手術に伴う援助 2) 術後合併症や二次感染の予防 3) 女性生殖器喪失への看護 4) 再発、予後不安に対する精神的支援 5) 社会復帰に向けての生活指導	1. 内性器の健康障害の病態生理を述べる ことができる 2. 子宮がんの術後合併症について述べる ことができる 3. 子宮がんの手術を受ける患者の看護について述べる ことができる 4. 社会復帰に向けての生活指導について述べる ことができる	講義
6 7	4	外性器の健康障害 1. 外性器の健康障害の診断と治療について理解できる 2. 乳がんで、非定型乳房切除術を受ける対象への看護の方法を理解する	1. 乳がん 1) 病態生理と症状、病型分類・予後について 2) 自己検診法 3) 診察・検査と治療・処置の理解 2. 壮年期における乳がん患者の看護 1) 手術に伴う看護 2) 日常生活行動の援助 3) リンパ浮腫の予防	1. 乳がんの病態生理を述べる ことができる 2. 乳がんの術後合併症について述べる ことができる 3. 乳がんの手術を受ける患者の看護について述べる ことができる	講義

			<ul style="list-style-type: none"> 4) 運動障害とリハビリテーション 5) 乳房喪失の悲嘆、ボディイメージの変化の受容と生活適応 6) 社会生活の適応に向けての生活指導 	<ul style="list-style-type: none"> 4. 乳房喪失の悲嘆の変化のボディイメージの変化への受容と生活適応について述べるができる 5. 社会生活の適応に向けての生活指導について述べるができる 	
8 9	4	<p>産褥期の身体的・心理・社会的変化とアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 産褥期の身体的経過を理解する 2. 産褥期の心理的特徴を理解する 3. 産褥期の役割変化について理解する 4. 産後の経過のアセスメントを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 産褥期の身体的変化 <ul style="list-style-type: none"> 1) 産褥の定義 2) 産褥の復古と悪露 3) 乳汁分泌 4) 月経の発来 5) 全身の変化 2. 褥婦の心理的变化 <ul style="list-style-type: none"> 1) 褥婦の心理的变化 <ul style="list-style-type: none"> (1) 母親への適応過程 (2) マタニティブルーズ (3) 愛着・絆の形成 3. 家族の心理的变化 <ul style="list-style-type: none"> 1) 父親の心理的变化 2) きょうだいの心理的变化 3) 祖父母の心理的变化 4. ソーシャルサポート (社会的支援) 5. 産褥経過の診断 <ul style="list-style-type: none"> 1) 褥婦の健康状態のアセスメント 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 産褥の定義について述べるができる 2. 退行性変化について述べるができる 3. 進行性変化について述べるができる 4. 母乳育児の意義について述べるができる 5. 産褥期におけるアセスメントの項目について述べるができる 6. ルービンによる産褥期の心理過程について述べるができる 7. マタニティブルーについて述べるができる 	講義
10	2	<p>新生児の生理とアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 新生児の生理を理解する 2. 新生児の健康状態のアセスメントを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 新生児の生理 <ul style="list-style-type: none"> 1) 新生児の定義 2) 新生児の分類 3) 新生児の機能 2. 新生児のアセスメント <ul style="list-style-type: none"> 1) 新生児の診断 2) 新生児の健康状態のアセスメント 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 新生児の定義を述べるができる 2. 新生児期の生理的变化について述べるができる 3. 新生児のアセスメントの項目について述べるができる 4. アプガースコアについて述べるができる 	講義
11 12	4	<p>褥婦と新生児、家族の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 産婦とその家族が主体的に産褥期間中の諸問題を解決するために必要な看護を学ぶ 2. 新生児が子宮外生活に適応するために必要な看護を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 身体機能の回復および進行性変化への看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 褥婦のセルフケアの不足に対する看護 2) セルフケア能力を高める看護 2. 児との関係確立への看護 <ul style="list-style-type: none"> 3) 母乳育児確立への看護 3. 育児技術にかかわる看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 児の栄養 2) 児の清潔 3) 児の健康管理 4. 家族関係再構築への看護 5. 新生児期の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 出生直後の看護 2) 出生後から退院時までの看護 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 産褥期の生理的变化への援助について述べるができる 2. 産褥期の乳房管理の必要性と方法について述べるができる 3. 子どもへの愛着形成を促す援助について述べるができる 4. 新生児の看護の原則について述べるができる 5. 保育環境について述べるができる 	講義
13	2	<p>産褥期の看護技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 産褥の健康を整えるための看護技術を習得する 2. 新生児期の皮膚の清潔を保つための技術を習得する 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 復古現象を促す援助 <ul style="list-style-type: none"> 1) 悪露交換 2) 子宮復古状態の観察・・・・・・● 3) 産褥体操 2. 沐浴・・・・・・● 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 産褥モデル人形にて子宮復古の観察ができる 2. 基本的沐浴法にて実施できる 	演習
14	2	<p>異常産褥の病態</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 産褥期に起こりやすい異常の病態生理・診断・検査・治療を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 子宮復古不全 2. 産褥期の発熱 <ul style="list-style-type: none"> 1) 産褥熱 2) 創部感染 3) 劇症型A群溶レン菌感染症 4) 泌尿器感染症 5) 乳腺炎 3. 産褥血栓症 4. 精神障害 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 子宮復古不全の原因・症状について述べるができる 2. 産褥熱の原因と種類について述べるができる 3. 乳腺炎の病型について述べるができる 4. 産褥うつとマタニティブルーの違いについて述べるができる 	講義
15	2	<p>異常産褥の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 正常からの逸脱の予防と逸脱時の看護を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 1. マイナートラブル (不快症状) の援助 <ul style="list-style-type: none"> 1) 会陰切開部痛・腰痛 2) 痔核・便秘 3) 静脈瘤 	<ul style="list-style-type: none"> 1. マイナートラブル (不快症状) に対するケアについて述べるができる 	講義

			<ul style="list-style-type: none"> 4) 浮腫 2. 正常からの逸脱の予防と逸脱時の援助 1) 子宮復古不全 2) 産褥熱 3) 創部感染症 4) 劇症型A群溶レン菌感染症 5) 尿路感染症 6) 乳腺炎 3. 産褥血栓症 4. 産後うつ 5. マタニティブルー 6. 周産期の死別 	<ul style="list-style-type: none"> 2. 子宮復古不全を悪化させる因子について述べるができる 3. 子宮復古不全の看護について述べるができる 4. 産褥熱の予防法とケアについて述べるができる 5. 乳腺炎の予防法とケアについて述べるができる 6. 産褥期のメンタルヘルスについて述べるができる 	
16	2	帝王切開術を受けた褥婦の看護 1. 帝王切開で出産した褥婦の看護を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 1. 身体回復への看護 2. 術後合併症予防の看護 1) 脊髄麻酔について 2) 経膈分娩との違い 3) 術後合併症（帝王切開術後血腫・出血・血栓／塞栓・創部縫合不全・イレウス・麻酔合併症・硬膜穿刺後頭痛・膀胱・腸管損傷・産褥熱 3. 早期母子接触・母子分離への看護 4. 母乳哺育・子育てへの看護 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 帝王切開後の身体、心理、社会的側面について述べるができる 2. 術後合併症について述べるができる 3. 愛着形成の維持促進について述べる事ができる 	講義
17 18 19 20 21	10	【看護過程の展開】 1. 正常経過をたどる褥婦・新生児の事例を通して産褥期・新生児期の看護過程が理解できる	<ul style="list-style-type: none"> 1. 産褥期・新生児期の事例展開 (1) 情報の整理と解釈 (2) 看護問題の抽出 (3) 看護計画の立案 (4) グループでの共有 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期・分娩期の経過から今後を予測したアセスメントができる 2. 正常産褥経過を促進する看護計画が立案できる 	講義 グループワーク
22	2	産褥3日目の子宮復古の観察の場面 1. 事例を通して、産褥期の看護過程の展開ができる	<ul style="list-style-type: none"> 1. 事例に応じた看護の展開 *シミュレーション演習 2. 看護実践の評価 3. 看護計画の追加・修正 	<ul style="list-style-type: none"> 1. SIM演習にて計画した看護を実践でき、評価することができる 2. 事例を用いて、看護計画も基づき、具体的な関わりについて実施できる 3. 実施した看護を評価し、看護計画の追加修正ができる 	演習
23	1	単位認定終講試験			

専 門 分 野

精 神 看 護 学

精神看護学概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1. 精神保健の基礎を学び人間は環境や社会の相互作用の中で生きていく存在であることを理解する 2. 環境や社会と精神看護の基礎的関係を学び、精神保健活動の課題を学ぶ				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	社会の動きと心の健康のつながりについて日頃から関心をもつこと グループワーク・発表があるときには資料作成と発表会準備が必要	テキスト	精神看護の基礎（医学書院） 精神看護の展開（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	精神看護で学ぶこと	1. 精神看護とは何か 2. 精神障害を持つ人の病いの体験と精神看護 3. 「心のケア」と日本社会 4. 精神看護の課題	1. 精神保健の定義について述べることができる	講義
2	2	精神保健の考え方	1. 精神の健康とは 2. 心身の健康に及ぼすストレスの影響 3. 心的外傷（トラウマ）と回復 4. 精神障害という捉え方	1. 精神の健康とストレスとの関連について述べるができる	講義
3 4	4	心のはたらきと人格の形成 1. 人間のこころの働きについて学ぶ	1. 心の働き 2. 心のしくみと人格の発達 1) 人格と気質 2) ライフサイクルとアイデンティティ 3) 対象関係論 4) ボウルビーの愛着理論 5) 土居健朗の「甘え」理論	1. 人の心の諸活動について理論を用いて述べるができる 2. 人格の発達について述べるができる	講義
4 5	4	関係のなかの人間 1. 看護の対象としての家族と集団について理解し、集団力動を学ぶ	1. 全体としての家族 1) 家族の多様性と精神の健康 2) システムとしての家族 3) 家族療法の考え方と技法 2. 人間と集団 1) 集団の中の自己 2) 全体としてのグループ 3) グループとしての病棟	1. 家族の中での自己の役割を述べるができる・所属する集団の中での自己の役割を述べるができる	講義
6 7	4	社会のなかの精神障害 1. 精神疾患・障害とその治療の歴史をふまえ日本における法制度について学ぶ	1. 精神障害と治療の歴史 2. 日本における精神医学・医療の流れ 3. 精神障害と文化 4. 精神障害と法制度 1) 精神科看護と法律 2) 法律・制度における課題 3) 主要な精神保健医療福祉対策	1. 精神障害の歴史と法制度の変遷について述べるができる	講義 グループワーク 発表
8 9 10	6	ケアの人間関係 1. ケアの関係の中心が感情であることを知り、自己理解・他者理解することがケアの人間関係のもとになることを学ぶ	1. ケアの前提 2. ケアの原則 3. ケアの方法 4. 関係をアセスメントする 1) プロセスレコードの活用 5. 患者・看護師関係における感情体験 6. 関係の視点からみた困難事例 7. チームのダイナミクス	1. プロセスレコードを活用して他者と自己、その関係性を考察することができる *プロセスレコードの提出	講義
11 12 13	6	回復を支援する 1. 患者にとっての回復の意味を理解し、治療的環境を作り出すための看護師の役割	1. 回復の意味 2. リカバリーのビジョン 3. 治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点 4. リカバリーを促す環境 5. リカバリーを促す方法としてのグループ 6. 様々な回復のためのプログラム 7. リカバリーのプロセス	1. 回復への取り組みについて述べるができる	講義

		を学ぶ				
14	2	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 1. 感情の管理（感情ワーク）が看護師にもたらすものを知り対処する方法を学ぶ	1. 看護師の不安と防御 2. 看護師の感情ワーク 3. 看護師における共感の光と影 4. 感情労働の代償と社会 5. 共感疲労をよぼうするためのいくつかのヒント	1. 感情労働としての看護について、自己の考えと対処方法を述べるができる	講義	
15	2	単位認定終講試験				

精神看護学援助論 I

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験		精神専門病院勤務経験有専任教員 精神専門病院勤務 看護師	
科目目標	1. 代表的な精神疾患について原因・病態・診断・治療を理解する 2. 行動化する患者の背景にあるものを理解し、回復を目標とした援助を学ぶ				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	精神科医療・看護に関わることに ついて日頃から関心をもつこと	テキスト	精神看護の基礎（医学書院） 精神看護の展開（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法	
1 2	4	地域におけるケアと支援	1. 「器」としての地域 2. 地域における生活支援の方法 3. 地域におけるケアの方法と実際 4. 学校におけるメンタルヘルスと看護 5. 職場におけるメンタルヘルスと精神看護	1. 病院中心の精神科医療から地域におけるケアへと向かう日本の地域精神医療保険の動きがわかる	講義	
3	2	医療の場におけるメンタルヘルスと看護	1. 身体疾患をもつ患者のメンタルヘルス 2. リエゾン精神看護とその活動 3. リエゾンナースの活動の実際 4. 看護師のメンタルヘルスへの支援	1. 身体疾患の治療を受ける患者が陥りやすい精神保健上の問題を述べることができる	講義	
4	2	災害時のメンタルヘルスと看護	1. 災害時における心のケア 2. 災害にみまわれ人の心理とケア 3. 支援者のメンタルヘルスとケア	1. 災害がもたらす身体的・精神的・社会的影響について述べることができる	講義	
5 6	4	入院治療の意味	1. 精神科を受診するという事 2. 治療の器としての病院・病棟 3. 入院中の観察とアセスメント 4. ケアの方向性を考える 5. 隊員に向けての支援とその実際	1. 精神科における入院の意味と、必要な環境整備について述べるができる	講義	
7 8 9	6	身体をケアする	1. 精神科における身体のケア 2. 精神科における身体を通した看護ケアの実際 3. 精神科の治療に伴う身体のケア 1) 薬物療法を受ける患者のケア 2) 電気けいれん療法を受ける患者のケア 4. 身体合併症のアセスメントとケア 5. 精神科における終末期ケア	1. 身体と精神の関係性をふまえて、身体の管理の必要性を述べるができる	講義	
10	2	安全を守る	1. リスクマネジメントの考え方と方法 2. 緊急事態に対処する 3. 緊急事態とスタッフの支援	1. 人権と治療のバランスの上に立つ「安全」についての基本的な考えを述べるができる	講義	
11 12 13 14	8	精神疾患のあらわれ方	1. 精神を病むことと生きること 2. 精神症状論と状態像 1) 症状とはなにか 2) さまざまな精神症状 思考の障害、感情の障害、意欲の障害、知覚の障害 意識の障害、記憶の障害、局所症状	1. 精神症状と状態像および問題状況把握とその看護について述べるができる	講義	
15	2	単位認定終講試験				

精神看護学援助論Ⅱ

開講時期	Ⅳ	単位数	2	時間数	45時間
教員名	専任教員	実務経験	精神専門病院勤務経験有専任教員		
科目目標	1. 精神疾患に特徴的な症状に対応した看護の過程を理解する 2. 身体疾患による治療・環境に伴う精神機能への影響に対応した看護の過程を理解する				
評価方法	筆記試験 100点 課題提出 30点	認定基準	筆記試験60点以上、事例展開18点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	事前学習として概論・援助論Ⅰ・Ⅱで学習した内容を復習しておく グループワーク・発表があるときには資料作成と発表会準備が必要	テキスト	精神看護の基礎（医学書院） 精神看護の展開（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2 3 4	8	精神科での治療 1. 実際に行われている治療の意義と副作用について理解する	1. 精神科における治療 2. 精神療法 1) 個人療法 2) 集団精神療法 3) 家族療法 3. 薬物療法 4. 電気けいれん療法その他 5. 環境療法・社会療法	1. 精神科で行われる治療の意義と副作用について述べる ことができる	講義
5	2	入院環境と治療的アプローチ	1. 治療の場としての精神科病棟 2. 治療的環境を考える 3. 精神科病棟でのミーティング	1. 入院生活を送る精神障害者の看護問題を理解し、基本的援助について考える ことができる 2. 治療的環境について述べる ことができる	講義
6 7 8 9	8	救急医療現場における患者支援と精神的関わり	1. 自殺企図により救急搬送された患者 1) 自殺企図者に対する救急医療機関の役割 2) 自殺未遂者への初期対応 3) 緊急医療現場での自殺未遂者に対する看護 2. 急性薬物中毒で救急搬送された患者 1) 急性薬物中毒の救命率 2) 急性薬物中毒と精神障害 3) 救急薬物中毒の初期対応 4) 原因薬物の特定・治療 5) 看護の留意点	1. 救急医療現場での精神的対応と看護の留意点を述べる ことができる 2. 自殺未遂者への初期対応について述べる ことができる 3. 急性薬物中毒の初期対応と治療について理解できる	講義
10 11 12 13 14 15 16	14	精神看護における対象理解	1. 統合失調症で、幻覚・妄想の陽性症状のある患者の看護 1) 病態を理解する 2) 発症要因、アセスメント 3) 問題状況の把握と看護 4) 急性期の患者の看護の実際 5) 慢性期の患者の看護の実際 2. うつ病で希死念慮のある患者の看護 1) 病態を理解する 2) 発症要因、アセスメント 3) 問題状況の把握と看護 4) 急性期の患者の看護の実際 5) 慢性期の患者の看護の実際 3. 摂食障害患者の看護の実際 1) 病態を理解する 2) 発症要因、アセスメント 3) 問題状況の把握と看護 4) 急性期の患者の看護の実際 5) 慢性期の患者の看護の実際	1. 対象の成育歴や背景と疾患とのつながりについて述べる ことができる 2. 精神的に障害をもつことにより引き起こされる日常生活行動レベルについて理解し、その意味について考える ことができる	講義 演習

17 18 19 20 21	10	【看護過程の展開】 事例を通して、症状、状態像について学ぶ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病態を理解する 2. データベースを用いて情報を分類 3. 看護上の問題を抽出する 1. 問題状況の把握 4. 全体像の捉え方について 5. 看護援助のポイントについて 6. 看護計画立案 	<ol style="list-style-type: none"> 1. データベースに情報を分類できる 2. 看護上の問題を抽出できる 3. 看護計画を立案できる 4. 事前学習と立案した看護計画を提出する 	講義 グループ ワーク
22	2	精神疾患患者の看護過程の展開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例に応じた看護の展開 *シミュレーション演習 2. 看護実践の評価 3. 看護計画の追加・修正 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の事例を用いて、看護計画も基づき、具体的な関わりについて実施できる 2. 実施した看護を評価し、看護計画の追加修正ができる 	演習
23	1	単位認定終講試験			

精神看護学援助論Ⅱ

開講時期	Ⅳ	単位数	2	時間数	45時間
教員名	専任教員	実務経験	精神専門病院勤務経験有専任教員		
科目目標	1. 精神疾患に特徴的な症状に対応した看護の過程を理解する 2. 身体疾患による治療・環境に伴う精神機能への影響に対応した看護の過程を理解する				
評価方法	筆記試験 100点 課題提出 30点	認定基準	筆記試験60点以上、事例展開18点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	事前学習として概論・方法論Ⅰ・Ⅱで学習した内容を復習しておく グループワーク・発表があるときには資料作成と発表会準備が必要	テキスト	精神看護の基礎（医学書院） 精神看護の展開（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2 3 4	8	精神科での治療 1. 実際に行われている治療の意義と副作用について理解する	1. 精神科における治療 2. 精神療法 1) 個人療法 2) 集団精神療法 3) 家族療法 3. 薬物療法 4. 電気けいれん療法その他 5. 環境療法・社会療法	1. 精神科で行われる治療の意義と副作用について述べる ことができる	講義
5	2	入院環境と治療的アプローチ	1. 治療の場としての精神科病棟 2. 治療的環境を考える 3. 精神科病棟でのミーティング	1. 入院生活を送る精神障害者の看護問題を理解し、基本的援助について考える ことができる 2. 治療的環境について述べる ことができる	
6 7 8 9	8	救急医療現場における患者支援と精神的関わり	1. 自殺企図により救急搬送された患者 1) 自殺企図者に対する救急医療機関の役割 2) 自殺未遂者への初期対応 3) 緊急医療現場での自殺未遂者に対する看護 2. 急性薬物中毒で救急搬送された患者 1) 急性薬物中毒の救命率 2) 急性薬物中毒と精神障害 3) 救急薬物中毒の初期対応 4) 原因薬物の特定・治療 5) 看護の留意点	1. 救急医療現場での精神的対応と看護の留意点を述べる ことができる 2. 自殺未遂者への初期対応について述べる ことができる 3. 急性薬物中毒の初期対応と治療について理解できる	
10 11 12 13 14 15 16	14	精神看護における対象理解	1. 統合失調症で、幻覚・妄想の陽性症状のある患者の看護 1) 病態を理解する 2) 発症要因、アセスメント 3) 問題状況の把握と看護 4) 急性期の患者の看護の実際 5) 慢性期の患者の看護の実際 2. うつ病で希死念慮のある患者の看護 1) 病態を理解する 2) 発症要因、アセスメント 3) 問題状況の把握と看護 4) 急性期の患者の看護の実際 5) 慢性期の患者の看護の実際 3. 摂食障害患者の看護の実際 1) 病態を理解する 2) 発症要因、アセスメント 3) 問題状況の把握と看護 4) 急性期の患者の看護の実際 5) 慢性期の患者の看護の実際	1. 対象の成育歴や背景と疾患とのつながりについて述べる ことができる 2. 精神的に障害をもつことにより引き起こされる日常生活行動レベルについて理解し、その意味について考える ことができる	講義 演習

17 18 19 20 21	10	【看護過程の展開】 ・事例を通して、症状、状態像について学ぶ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病態を理解する 2. データベースを用いて情報を分類 3. 看護上の問題を抽出する 1. 問題状況の把握 4. 全体像の捉え方について 5. 看護援助のポイントについて 6. 看護計画立案 	<ol style="list-style-type: none"> 1. データベースに情報を分類できる 2. 看護上の問題を抽出できる 3. 看護計画を立案できる 4. 事前学習と立案した看護計画を提出する 	講義 グループワーク
22	2	精神疾患患者の看護過程の展開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例に応じた看護の展開 *シミュレーション演習 2. 看護実践の評価 3. 看護計画の追加・修正 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の事例を用いて、看護計画も基づき、具体的な関わりについて実施できる 2. 実施した看護を評価し、看護計画の追加修正ができる 	演習
23	1	単位認定終講試験			

専門分野

看護の統合と実践

看護管理

開講時期	IV	単位数	1	時間数	30時間
教員名	臨床講師 専任教員	実務経験	有 大阪労災病院勤務 看護師		
科目目標	1. 看護管理の対象とその実践範囲について学ぶ 2. 質の高い看護を実践していくための看護の管理の方法を学ぶ 3. 安全な医療および看護のための方法とその管理の実際を理解する 4. 看護専門職としてのキャリア形成について学ぶ				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	看護の動向を含め日ごろから関心をもっておく	テキスト	看護管理（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	講義
1 2 3	6	看護サービスのマネジメント 1. 組織として看護サービスをマネジメントする考え方を学ぶ	1. 看護サービスのマネジメント 1) サービスとは 2) 看護サービスのマネジメントの対象と範囲 2. 組織目的達成のマネジメント 1) 理念の形成と浸透 2) 現状分析・情報収集 3) 看護の組織化 3. 看護サービス提供の仕組みづくり 1) 看護単位の機能と特徴 2) 看護ケア提供システム 4. 人材のマネジメント 1) キャリアディベロップメント 2) 人材フローのマネジメント 3) 労働環境 5. 施設・設備環境のマネジメント 1) 医療施設の施設・設備環境・ 2) 療養環境の整備・ 3) 作業環境の整備 6. 物品のマネジメント 1) 物的資源管理（物品管理）の原則 2) 物品供給システム 3) 医薬品の取り扱いと管理（麻薬・毒薬・劇薬を含む） 4) 医療機器等の管理 5) 廃棄物の取り扱いと管理 7. 情報のマネジメント 1) 情報の種類 2) 情報の管理 3) 守秘義務 4) プライバシーの保護 5) 情報開示への対応 8. 組織におけるリスクマネジメント 1) リスクマネジメントとは、 2) 事業継続計画（BCP） 3) 災害への備え 4) 災害サイクルからみた災害医療 5) 災害時の対応 9. サービスの評価。 1) 医療におけるサービスの質の評価・ 2) わが国における医療機能の評価	1. 看護サービスのマネジメントの対象と範囲についてマネジメントサイクルと関連して理解できる。 2. 組織をマネジメントするにあたり、理念と現状分析の必要性を理解し、看護の組織化とのかかわりを理解することができる。 3. 看護サービス提供のためのしくみについて理解できる。 4. 人材のマネジメントについて理解できる。 5. 設備環境および物品のマネジメントについて理解できる。 6. 組織におけるリスクマネジメントについて理解することができる。 7. 対象者へのサービスの評価について、どのような視点があるのかについて理解できる。	講義
4 5	4	マネジメントに必要な知識と技術 1. マネジメントに必要な知識と技術について学ぶ	1. マネジメントとは 1) マネジメントプロセス 2) マネジメントサイクル 2. 組織とマネジメント 1) 組織構造と組織原則 2) 組織とマネジメントの基本 3. リーダーシップとマネジメント	1. マネジメントの概要について理解できる。 2. 組織の構造とその原則について整理し、マネジメントとの関連について理解できる。	講義

			<ul style="list-style-type: none"> 1) リーダーシップの定義 2) 特性理論 3) 行動理論 4) 条件適合理論 4. 組織の調整 <ul style="list-style-type: none"> 1) 集団 2) 組織文化 3) コミュニケーション 4) 動機づけ 5) パワーとエンパワメント 6) コンフリクト 7) 変化と変革 	<ul style="list-style-type: none"> 3. 組織における人間および人間関係についての諸理論について理解できる。 4. 組織の構成員を調整する要素を、問題解決の方法とあわせて理解できる。 5. 組織のなかにおいて、意思決定などの個人の能力を広げるための要素について理解できる。 	
6 7 8	6	多様な場での看護のニーズと実践について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 1. 国際看護の実際 2. 災害看護の実際 3. へき地医療・看護の実際 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 多様な場での看護の対象者の理解とニーズの実際を知りキャリア形成の礎となることができる 	講義
9	2	医療安全管理 - 1 - 医療安全管理について理解する	<ul style="list-style-type: none"> 1. 認知科学や心理学からの人間のもつエラーの可能性について 2. 看護の仕事の特性とヒューマンエラーについて 	<ul style="list-style-type: none"> 2. ヒューマンエラーについて説明することができる 3. 看護師の業務と関連させ、ヒューマンエラーを考えることができる 	講義
10	2	医療安全管理 - 2 - 医療安全管理について理解する	<ul style="list-style-type: none"> 1. 国の医療安全対策（厚生労働省の取り組みについて） 2. 組織としての医療安全対策 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 国の対策に沿った組織での安全対策の関連が理解でき、責任を負うことができる 	講義
11	2	医療安全管理 - 3 - 医療安全管理について理解する	<ul style="list-style-type: none"> 1. 「ヒヤリ・ハット」「インシデント・アクシデントレポート」について 2. 原因分析トレーニング方法 3. 臨地実習に関する医療事故防止策 <ul style="list-style-type: none"> 1) 実習生の注意義務と事故発生時の対応 2) 実習生が関わる賠償自己の法的責任 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 報告義務を理解し、安全のための解決策を導く重要性が理解できる 2. 事故原因の探求の意味を理解できる 	講義・演習
12	2	医療安全管理 - 4 - 医療安全管理について理解する	<ul style="list-style-type: none"> リスク感性を養うための危険予知トレーニング（事例を用いて） 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 看護場面から事故の可能性を推察し、その根拠を説明できる 	講義・演習
13	2	医療安全管理 - 5 - 医療安全管理について理解する	<ul style="list-style-type: none"> 危険予知トレーニング <ul style="list-style-type: none"> 1. 事例の分析結果と対策をクラスで共有する 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 看護場面から事故の可能性を推察し、その根拠を説明できる 	講義
14	2	看護業務上の管理 看護師の業務上の安全について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 1. 感染の危険性について 2. 医療用機材、医薬品による危険 3. 暴力 4. 労働条件によるもの 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 業務上の危険と防止策について理解し、実践に繋げる発想が持てる 	講義
15	2	単位認定終講試験			

災害看護

開講時期	IV	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験	病院勤務経験有 大阪労災病院勤務 医師		
科目目標	1. 災害直後から支援できる看護の基礎知識について理解する 2. 勤労者を含むあらゆる災害看護の対象者への支援活動について理解する 3. 大規模災害に備えた基本的な実践能力を習得することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	日頃より災害に関するニュースや動向に関心を持つこと 技術演習の際には事前に自己学習や手順書作成などの準備が必要	テキスト	災害看護学・国際看護学（医学書院） 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2 3 4	8	災害および災害看護に関する基礎的知識 1. 災害の定義を理解する 2. 災害に対する社会の対応について理解する 3. 災害看護を理解する	1. 災害看護の歩み 1) 救助活動としての災害看護のはじまり 2) 災害の体験から求められる看護の役割の拡大 2. 災害医療の基礎知識 1) 災害の定義 2) 災害の種類と健康被害 3) 災害医療の特徴 4) マスギャザリングとNBC災害への対応 5) 災害と情報 6) 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 7) 災害看護と法律 8) 近年の災害における課題と対策	1. 災害の定義と分類について述べる ことができる 2. 災害サイクルに対応した活動が理解できる 3. 災害時の社会制度について理解 することができる	講義
5	2	病院における災害活動 1. 医療施設における災害対応について理解する	1. 労災病院の役割・その地域、勤労者への役割 1) 病院における災害への備え初動体制 2) 労災病院の役割・地域での役割	1. 災害時の地域、勤労者に対する労災病院の役割が理解できる	講義
6	2	災害看護の基礎知識 1. 災害時の看護活動について理解することができる 2. 災害サイクルにおける看護の役割が理解できる	1. 災害看護の定義と役割 1) 災害看護の定義 2) 災害看護の役割 3) 災害看護の対象 4) 災害看護の特徴と看護活動 5) 災害看護活動におけるアセスメント 6) 災害看護場面におけるジレンマ 2. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	1. 災害看護の定義と役割を述べる ことができる 2. 災害サイクルからみた看護の役割を述べる ことができる	講義
7 8 9	6	災害時に必要な技術 1. 災害時に必要な技術について理解する 2. 災害時に必要な緊急処置が実施できる	1. 災害時に必要な技術 1) トリアージ 2) 治療 (1) 一次救命処置（BLS）・・・● (2) 二次救命処置（ALS）・・・● (3) 救護所での応急処置・・・● 3) 搬送	1. トリアージの判断基準・分類の定義を述べる ことができる 2. スタートトリアージが実施できる 3. 一次・二次救命処置が実施できる 4. 救急処置の方法を述べ実施できる 5. 患者の状態の応じた搬送方法を 選択することができる	講義 演習
10 11 12 13 14	10	災害時に必要な技術を習得する 1. 災害発生時の実際の場面を想定し災害時における看護技術を習得することができる 2. トリアージ、心肺蘇生創処置が実施できる	1. 災害時の看護技術を身につける 1) 災害想定シミュレーション 2) 応急救護班の役割 トリアージ・・・● 搬送・・・● 応急処置・・・● 心肺蘇生法・・・●	<実践評価> 1. 災害時における被災患者の発災直後を想定し、演習を行う 2. 実施者・観察者・被災者役を行い、評価基準に則り評価する	講義 演習

15	2	単位認定終講試験
----	---	----------

●：演習

ケーススタディ

開講時期	V・VI	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	有		
科目目標	1. 臨地実習で受け持った症例について、理論に基づいて分析・考察し、その成果を論文としてまとめることができる 2. 自分の意見を他者に伝えるプレゼンテーション力を養うことができる 3. 他者との意見交換を通し、新たな観点・方法論を得て、リフレクションし看護を深めることができる				
評価方法	ケースレポート評価 (計画性・文章校正・発表・リフレクションについての評価表)	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習(予習・復習・課題)	定期的に提出要件あり、計画的に進めること	テキスト	看護学生のためのケーススタディ (メヂカルフレンド社) 看護研究 (医学書院)		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	ケーススタディとは 1. ケーススタディの定義を理解できる	1. ケーススタディとは何かを知る 2. ケーススタディを行う目的を学ぶ 1) ケーススタディの歴史的背景 2) ケーススタディとは何か	1. ケーススタディを行う目的を述べることができる	講義
2	2	看護とケーススタディ 1. 看護とケーススタディの関係を理解できる	1. 基本的看護活動とは 2. 科学的根拠に基づく看護 3. 日常の看護活動 4. 看護学生のためのケーススタディ 5. ケース・レポート作成にあたっての倫理的態度	1. ケーススタディと看護活動の関係を述べることができる	講義
3 4	4	ケーススタディに先立つ看護実践 1. ケーススタディに先立つ看護実践について振り返ることができる	1. 看護実践とケースレポート 2. 倫理的手続きとケースレポート 3. 看護過程と看護実践	1. テーマを決めることができる 2. 論文の骨子をまとめることができる 3. 倫理的配慮を述べることができる	講義 演習
5 6 7 8 9 10 11	14	ケーススタディの企画と準備 1. ケーススタディの企画と準備ができる	1. ケースレポートの企画と準備 2. 看護過程の振り返り 3. 文献検索 4. ケースレポートの作成 1) テーマ 2) 序論 3) 事例紹介 4) 看護上の問題とアセスメント 5) 看護の実際と結果 6) 考察 7) 結論 8) 文献	1. 計画的に指導を受けることができる 2. 抄録の書き方と構成で書き進めることができる 3. 文献の活用ができる 4. 論旨が明らかである	講義 演習
12 13	4	発表会 1. プレゼンテーション力を養う 2. 質疑応答をとおして、互いの意見を討論する	1. ケースレポートの発表会を行う 2. 質疑応答をとおして、互いの意見を討論できる機会とする 3. 新たな観点、方法論を得る 4. 講評をする	1. 集団の中で自己の意見を述べ、他者の意見を客観的に受け止めることができる 2. 互いの意見を討論できる	演習
14	2	リフレクション 1. 学んだことを整理・省察する	1. ケーススタディ、発表会をとおして学んだことを言語化する	1. 学びを言語化できる 2. 自己の課題を明確にできる	講義
15	2	ケース・レポートから研究への展望	1. 研究としてのケーススタディ 2. ケース・レポートから研究へ	1. ケーススタディを研究的視点で発展的に展望を述べるができる	講義

勤労者看護（総合看護技術）

開講時期	V・VI	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員 臨床講師 非常勤講師	実務経験		勤労者看護領域病棟勤務経験有 大阪労災病院治療就労両立支援センター 保健師 企業勤務	
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 勤労者が健康レベルに応じて健康的に働くことができるよう看護の役割を理解し、健康支援活動の実際を理解することができる 2. 国際社会において日本で暮らす外国人労働者へのヘルスサポートの実際について学ぶ 3. 事業者が労働者と協力して組織的に行う健康支援活動について理解できる 4. 疾病を持つ勤労者の事例に基づき、総合的な看護技術演習を行い、評価及び今後の課題を明確にすることができる 				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	勤労者に関わる動向について調べる	テキスト	勤労者医療概論		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	勤労者看護の実践者としての役割 1. 勤労者看護の実践者としての役割を理解することができる	1. 労災病院の役割機能 2. 勤労者医療を推進する組織での看護師の役割	1. 勤労者看護とは、勤労者看護の対象範囲働く人の労働と健康の関連を述べることができる	講義
2 3 4	6	勤労者である看護師のヘルスアセスメント 1. ワークライフバランス、キャリア、THPの進め方、労働に関連する制度や法律が理解できる	1. 看護師の健康管理対策 1) 職場における様々な制度と法律 2) ワークライフバランス 3) キャリアを考える 4) トータル・ヘルスプロモーション・プラン（THP）	1. 仕事と生活を両立させるトータル・ヘルスプロモーションについて考えることができる 2. 労働に関連する制度や法律について理解できる	講義
5 6	4	国際社会において外国人労働者のヘルスサポート 1. 在日外国人への看護の実際を理解することができる 2. 国際保健活動の看護領域の場について理解できる	1. 国際的視野を持つことの意味 2. 異文化理解と国際看護活動 3. 在日外国人に対する保健医療福祉問題解決のフレームワーク 4. 看護師の外国人患者対応の現状と課題 5. ヘルスサポートの実際	1. 国際的な視野を持つことができる	講義
7 8	4	総合技術演習 1. 勤労者看護に必要な看護師の役割が理解できる 2. 勤労者の健康状態をアセスメントし、職業と健康の関連を理解することができる	1. 疾病をもつ勤労者の事例検討 1) 疾病をもつ勤労者の事例で勤労者看護アセスメントツールを使用してアセスメントし、看護過程を展開する	1. 勤労者看護の視点について理解できる 2. 勤労生活が疾病へ及ぼす影響を述べることができる 3. 早期社会復帰に向けた看護の重要性を述べることができる	講義

9 10 11	6	総合演習 1. 複数の事例患者に必要な看護を包括的にとらえ、判断する思考プロセスを明確にすることができる	1. 総合技術演習 1) 疾患と経過から対象に合わせた看護計画を立案することができる 2) 疾患と経過から必要とされる看護技術を抽出し、事例の対象に合わせた技術のポイントや安全・安楽に配慮した技術を実施する	1. 統合された存在である人間に対する総合的な看護技術を抽出し実施できる	演習
12 13 14	6	総合演習 1. 看護技術を提供する際の判断、根拠の重要性が再認識できる	1. 総合技術演習 1) 事例の中から2事例を抽出し、複数受け持ちの状況を作成し、必要な看護計画を立案する 2) 判断の根拠、優先順位を明確にして看護場面をシミュレーションして自己の課題を見出す(机上シミュレーション)	1. 複数受け持ちの状況を把握し看護技術を実施することができる	演習
15	2	単位認定終講試験			